

平成 30 年度

厚生労働省保健指導支援事業人材育成事業

「保健指導ミーティング」実施報告

公益社団法人 日本看護協会

平成 31 年 3 月

目 次

1. 背景と実施経過	1
2. 平成 30 年度実施概要	2
3. 平成 30 年度保健指導ミーティング実施結果	3
1) 開催結果	3
2) 実施内容	3
3) 保健指導ミーティング開催概要一覧	4
4) 参加者の属性と参加人数	5
5) 参加者の背景	6
6) 参加者アンケート結果による評価	7
7) 企画運営の結果	9
4. 平成 30 年度まとめ	13
5. 保健指導ミーティング 各県実施報告	14

資 料

・平成 30 年度保健指導ミーティング参加者アンケート	110
-----------------------------	-----

1. 背景と実施経過

少子超高齢化の急速な進展に伴い日本人の疾病構造が変化し、生活習慣病の割合が増加する中、生涯にわたる生活の質の維持・向上のためには、健康寿命の延伸や健康格差の縮小が求められている。そのためには、発症予防、あるいは重症化予防の取り組みが重要かつ喫緊の課題であり、保健師にはより高度な保健指導のスキルが求められる。

一方、保健師が効果的な保健指導を行うためには、地域の実情に応じた医療・介護の提供体制の整備、健康的な暮らしを支える社会環境へのアプローチも重要となる。近年、格差社会等の背景を受け、複雑困難な事例への対応が迫られることも増加していることから、行政、企業、地域包括支援センター、健診・医療機関など多様な場で活動する保健師間の相互支援、情報共有や学びあう場や仕組みづくりが不可欠となる。

こうした背景を受け、本会では地域保健活動の普及と充実をはかることを目的に、これまで、厚生労働省より「保健指導支援事業人材育成事業」を受託し、「保健指導ミーティング」として都道府県看護協会とともに企画・開催してきた。開催都道府県は拡大し、都道府県・保健所、市町村、産業等、多様な領域から11年間で延べ9,000名を超えた。

平成25年度からは、新任保健師に対して、新任期に必要な個別事例のアセスメント能力の獲得ことを目指し、新任期及び指導保健師（プリセプター）を対象に「保健指導ミーティング」を開催した。さらに、平成26年度からは本会が開発した事例検討会の手法「実践力Up事例検討会*1」を提示し、「保健指導ミーティング」に取り入れた開催を推奨している。

(*1 : 「実践力Up事例検討会」について : 『そうだ！事例検討会をやろう！“実践力Up事例検討会”～みて・考え・理解して～(平成25年度厚生労働省保健指導支援事業技術開発事業 報告書 平成26年3月, 公益社団法人日本看護協会)』参照)

保健指導ミーティングについて

1) 保健指導ミーティングとは

「保健指導ミーティング」は、①保健師の事例検討や実践事例発表、②保健師同士のグループ討議を主たる内容とし、日本看護協会と各都道府県看護協会とが協働して企画・実施する事業である。

行政領域の保健師のみに留まらず、産業や医療・福祉・教育機関の保健師も含めて一堂に会し、事例の検討やお互いの実践を振り返り、スキルアップを図ることにより、保健師の専門性を発揮するための基盤強化を目指す研修プログラムである。

2) 開催テーマ

保健指導に従事する各領域の保健師が一堂に会し、保健指導のスキルアップを図るために、各領域の保健師に共通であると考えられる「生活習慣病予防」をテーマや事例検討会に含み、複雑困難な事例について取り上げる。(複数テーマの組合せ可)

2. 平成 30 年度実施概要

1) 事業目的

- ① 新任保健師及び指導保健師（プリセプター）の保健指導のスキルアップの動機づけ
- ② 新任保健師の現任教育の手法の普及・自立への支援
- ③ 行政、地域包括支援センター、産業、健診・医療機関等に所属する保健師のネットワーク形成

2) 到達目標

- ① 新任保健師及び指導保健師（プリセプター）の保健指導のスキルアップの動機づけとなる

（ア） 新任保健師

個別の保健指導をしっかりとできることが、地域課題への気づきや取組みにつながることや、その意義を理解できる

（イ） 指導保健師

新任保健師とともに実践事例の検討に加わる事を通して、新任保健師に対する今後の指導に活かすことができる

- ② 新任保健師の現任教育の手法が普及し、保健指導ミーティングを自立して実施できる
- ③ 領域を超えた新任保健師及び指導保健師間のネットワークが形成される

3) 保健指導ミーティング対象者：新任保健師*2（実務経験 1～5 年程度）と指導保健師（プリセプター）

*2「保健師に係る研修のあり方等に関する検討会」（平成 28 年 3 月 31 日）別紙「自治体保健師の標準的なキャリアラダー」のキャリアレベル A-1、A-2 に相当する保健師

4) 実施方法

(1) 保健指導ミーティングの実施：日本看護協会が公募し、以下の条件で都道府県看護協会を選定する

※応募の条件

- ① 都道府県看護協会保健師職能委員会の企画であること
- ② 新任保健師及びその指導保健師を主たる対象とした企画であること
- ③ 都道府県看護協会会長の理解が得られること
- ④ 都道府県の関係主管課と連携していること
- ⑤ 関係組織・団体と連携し、多様な活動領域（行政・地域包括支援センター、産業、健診・医療機関、福祉、その他）の保健師が参加できるように、周知が図られること
- ⑥ 平成 30 年 9 月から平成 31 年 1 月中旬までに実施すること
- ⑦ 新任保健師自らの保健指導の実践事例の検討会をプログラムに取り入れること
- ⑧ 保健指導ミーティングの評価を行うこと（参加者アンケート事後評価、企画者事後評価等）
- ⑨ 以下の点に留意した保健指導ミーティングを開催できること
 - ・本会が開発した事例検討会の手法をとり入れて、ミーティングが開催できること
 - ・指導保健師自らが学ぶことに加え、新任保健師に対する今後の支援に活かすことができるよう配慮すること
 - ・新任保健師と指導保健師が、事例検討を通して得た学びを発表・意見交換するようなグループ討議の進め方やファシリテーションの工夫を行うこと

5) 評価方法：評価は、実施者による「実施評価」「結果評価」「企画評価」と、参加者によるアンケート評価の 2 種類で行う

3. 平成 30 年度 保健指導ミーティング実施結果

1) 開催結果

(1) 実施期間：平成 30 年 9 月～平成 31 年 1 月

(2) 研修実施都道府県看護協会（15 府県看護協会）：

山形県看護協会、茨城県看護協会、栃木県看護協会、埼玉県看護協会、千葉県看護協会、富山県看護協会、愛知県看護協会、大阪府看護協会、奈良県看護協会、和歌山県看護協会、鳥取県看護協会、岡山県看護協会、香川県看護協会、愛媛県看護協会、佐賀県看護協会

(3) 事務局：日本看護協会健康政策部保健師課

2) 実施内容

(1) 開催準備

① 企画・運営のための事前打合せ・周知

<回数・参加者>

15 府県協会とも開催前の事前打合せを行い、職能委員を中心にコーディネーター・講師・実践事例発表者を交えた打合せを実施し、プログラム・企画の内容について検討した。

山形県	茨城県	栃木県	埼玉県	千葉県	富山県	愛知県	大阪府
2 回	2 回	4 回	1 回	2 回	2 回	3 回	4 回
奈良県	和歌山県	鳥取県	岡山県	香川県	愛媛県	佐賀県	平均
3 回	2 回	2 回	3 回	7 回	3 回	2 回	2.8 回

<事前打合せの主な内容>

日程・会場の検討、テーマの検討、講師の選定、周知方法の検討、事例提供者の決定、スタッフの役割分担、必要物品の確認、事例検討会のグループ分け、配付・映写資料の確認、アンケート作成、当日の進め方の確認、講師との最終確認

<周知方法>

- ・保健師関連団体（全国保健師長会、全国保健師教育機関協議会、日本公衆衛生看護研究会、日本産業保健師会、日本保健師活動研究会）に対する周知
- ・協会ニュース、雑誌等への案内掲載
- ・看護協会会員へは、看護協会ホームページ、会報誌、会員名簿やメーリングリスト等活用、非会員へは、県の主管課や保健師関連団体への協力依頼、研修等でよびかけ
- ・会員・非会員ともに職能委員長や職能委員による直接の呼びかけ
- ・地域包括支援センター、産業保健総合支援センター、看護系大学等への周知依頼

3) 保健指導ミーティングの開催概要一覧

開催回数は、15 府県看護協会中 1 回開催が 13 府県、埼玉県と愛知県は 2 回開催した。
午前午後を通して終日開催したのは 6 府県、午前または午後のみ開催したのは 9 県であった。

本ミーティングは、平成 20 年度より毎年開催されたが、岡山県は毎年開催、鳥取県は初めて開催した。

県協会	開催日	時間	会議名	主な対象者 (*3)	会場	実施年数 (*4)
山形県	11/3(土)	10:00-16:00	「妊娠期から子育て期を支える支援とは」 ～医療モデルから子育て支援モデルへのシフト～ (助産師職能合同)	新任期、 プリセプター	山形県看護協会	5 年
茨城県	10/3(水)	13:30-16:30	平成 30 年度保健指導 ミーティング	新任期、 プリセプター	茨城県看護研修セ ンター	10 年
栃木県	12/8(土)	10:00-16:00	保健指導ミーティング	新任期、 プリセプター	自治医科大学 看護学部 学習室	6 年
埼玉県	12/15(土) 1/19(土)	9:30-16:00 9:30-16:00	保健師専門研修	新任期、 プリセプター	埼玉県看護協会 研修センター	6 年
千葉県	11/3(土)	10:00-15:00	保健指導ミーティング	新任期、 プリセプター	千葉県看護協会	3 年
富山県	12/8(土)	9:30-12:00	やってみよう実践力ア ップ 事例検討Ⅳ	新任期、 プリセプター	富山県看護研修セ ンター	4 年
愛知県	11/19(月) 12/4(火)	13:45-16:45 13:30-16:45	ファシリテーションの コツがわかる実践力ア ップ事例検討会	新任期、 プリセプター	ウインクあいち 岡崎市福祉会館	2 年
大阪府	10/28(日)	10:00-16:00	新任期・指導保健師育 成支援事業	新任期、 プリセプター	大阪府看護協会 ナーシングアート大阪	9 年
奈良県	11/20(火)	10:00-16:00	保健指導ミーティング	新任期、 プリセプター	奈良県 橿原総合庁舎	3 年
和歌山県	12/1(土)	13:00-16:30	平成 30 年度 保健指 導ミーティング	新任期、 プリセプター	和歌山県看護協会	7 年
鳥取県	11/29(木)	13:00-16:00	事例検討実践研修会	新任期、 プリセプター	倉吉市体育文化会 館	1 年
岡山県	11/10(土)	13:00-16:30	交流会及び保健指導ミ ーティング	新任期、 プリセプター	岡山県看護会館	11 年
香川県	11/15(木)	13:30-16:30	保健指導ミーティング	新任期、 プリセプター	香川県看護協会 看護研修センター	10 年
愛媛県	1/19(土)	13:30-16:00	保健指導ミーティング	新任期、 プリセプター	愛媛県看護会館	5 年
佐賀県	12/15(土)	9:00-13:00	保健指導ミーティング	新任期、 プリセプター	佐賀県看護協会 看護センター	8 年

(*3 主な対象者：【新任期】実務経験 1～5 年程度の保健師（新任保健師）

※「対人支援活動」において、『自治体保健師の標準的なキャリアラダー』のキャリア
レベル A-1、A-2 に相当する保健師

【プリセプター】新任保健師を指導する立場にいる中堅期保健師等

(*4 実施年数：継続した年数ではなく、平成 20 年から開催した年数の合計)

4) 参加者の属性と参加人数

参加者は791人で、行政領域からの参加が600人(75.8%)と最も多く、次いで医療領域からの参加が96人(12.1%)であった。また、全体の356人(45.0%)が新任保健師の参加であった。

(単位：人)

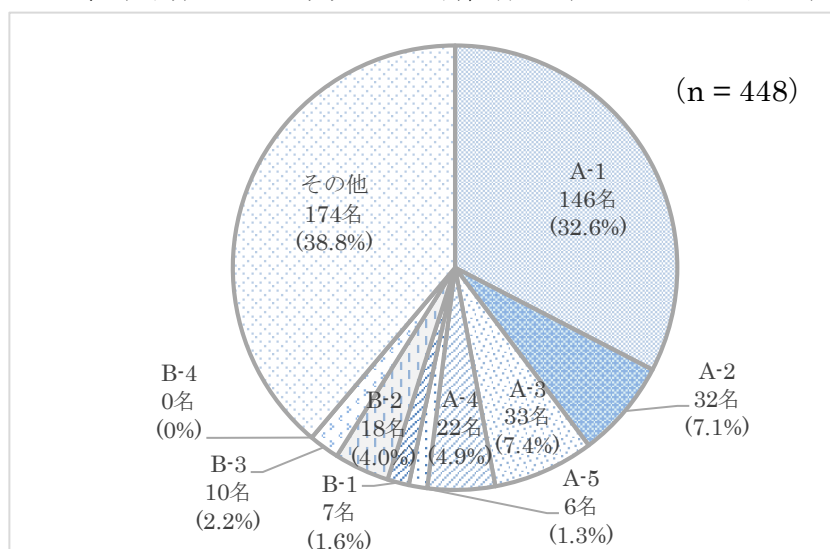
	行政	産業	医療	福祉	その他	①参加者* (新任再掲)	②講師
山形県 (新任期再掲)	35 (4)	0 (0)	34 (4)	0 (0)	3 (0)	72 (8)	1
茨城県 (新任期再掲)	29 (18)	0 (0)	9 (8)	15 (11)	1 (0)	54 (37)	1
栃木県 (新任期再掲)	34 (20)	0 (0)	10 (7)	0 (0)	3 (0)	47 (27)	1
埼玉県1 (新任期再掲)	32 (21)	1 (1)	3 (1)	0 (0)	4 (1)	40 (24)	2
埼玉県2 (新任期再掲)	35 (19)	0 (0)	7 (5)	0 (0)	4 (0)	46 (24)	1
千葉県 (新任期再掲)	13 (3)	1 (0)	1 (0)	0 (0)	4 (0)	19 (3)	1
富山県 (新任期再掲)	36 (15)	0 (0)	3 (2)	0 (0)	1 (0)	40 (17)	1
愛知県1 (新任期再掲)	36 (23)	1 (0)	0 (0)	12 (10)	2 (1)	51 (34)	1
愛知県2 (新任期再掲)	59 (22)	1 (1)	4 (4)	4 (4)	2 (0)	70 (31)	1
大阪府 (新任期再掲)	57 (31)	0 (0)	8 (2)	0 (0)	3 (0)	68 (33)	1
奈良県 (新任期再掲)	51 (25)	1 (0)	2 (2)	0 (0)	2 (0)	56 (27)	2
和歌山県 (新任期再掲)	30 (6)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	4 (0)	34 (6)	1
鳥取県 (新任期再掲)	31 (20)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	1 (0)	33 (20)	1
岡山県 (新任期再掲)	13 (4)	2 (0)	8 (1)	0 (0)	9 (0)	32 (5)	0
香川県 (新任期再掲)	38 (25)	0 (0)	2 (0)	0 (0)	0 (0)	40 (25)	1
愛媛県 (新任期再掲)	29 (11)	4 (1)	0 (0)	0 (0)	3 (0)	36 (12)	1
佐賀県 (新任期再掲)	42 (18)	3 (1)	4 (2)	2 (2)	2 (0)	53 (23)	1
合計 (新任期の合計)	600 (285)	14 (4)	96 (38)	33 (27)	48 (2)	791 (356)	18
割合(%) (新任期の割合)	75.8% (47.5%)	1.8% (28.6%)	12.1% (39.6%)	4.2% (81.8%)	6.1% (4.2%)	100% (45.0%)	①+② 809

※参加者には、運営スタッフ（職能委員、実践事例発表者、コーディネーター、ファシリテーターなど）を含む

5) 参加者の背景

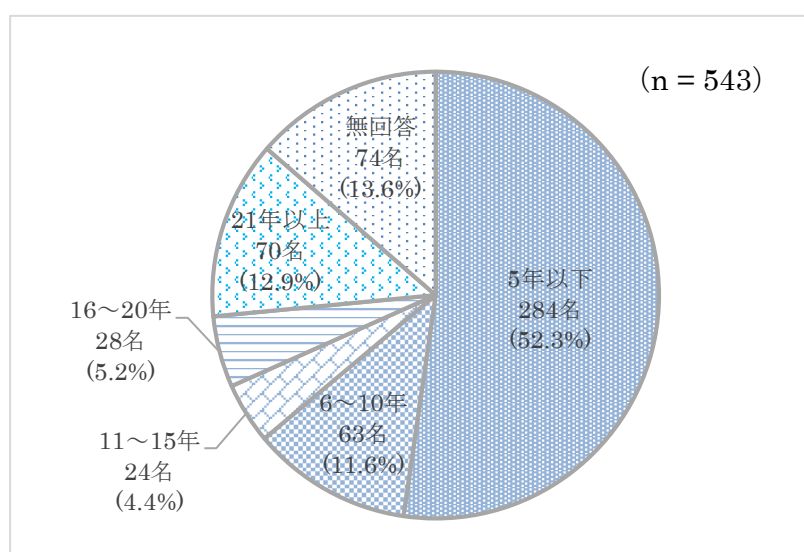
アンケート回答者は、参加者 791 名中 597 名であった。

- 597 名のうち 448 名にキャリアレベルの記載があった。内訳は、A-1 146 名 (32.6%) A-2 32 名 (7.1%)、A-3 33 名 (7.4%)、A-4 22 名 (4.9%)、A-5 6 名 (1.3%)、B-1 7 名 (1.6%)、B-2 18 名 (4.0%)、B-3 10 名 (2.2%)、B-4 0 名 (0%)、その他 (わからない等) 174 名 (38.8%) であり、本事業の主な対象である新任保健師 A-1～A-2 の参加者は約 4 割であった。



図表 1 : キャリアレベルごとの人数と割合

- 「職種」に回答があったのは 584 名。そのうち保健師が 543 名 (93.0%)、看護師 20 名 (3.4%)、助産師 15 名 (2.6%)、その他が 6 名 (1.0%) だった。
- 「保健師」と回答した 543 名の保健師経験年数の内訳は、5 年以下が 284 名 (52.3%)、6～10 年が 63 名 (11.6%)、11～15 年が 24 名 (4.4%)、16～20 年が 28 名 (5.2%)、21 年以上が 70 名 (12.9%)、無回答が 74 名 (13.6%) であり、本事業の主な対象である新任保健師 (経験年数 5 年以下) が半数 (52.3%) を占めた。



図表 2 : 保健師経験年数ごとの参加者割合

- ・「所属」に回答があったのは572名で、そのうち「市町村」が201名（35.1%）と最も多く、次いで「保健所設置市・特別区」108名（18.9%）、「都道府県型の保健所」97名（17.0%）、「都道府県」39名（6.8%）、「病院」38名（6.6%）、「地域包括支援センター」35名（6.1%）、「健診センター・労働衛生機関」22名（3.8%）、「その他」13名（2.3%）、「企業・事業所」9名（1.6%）、「教育・研究機関」は7名（1.2%）、「訪問看護ステーション」、「診療所」「医療保険者（市町村を除く）」は各1名（0.2%）であった。

6) 参加者アンケート結果による評価

- ・ミーティングに参加した理由（複数回答）

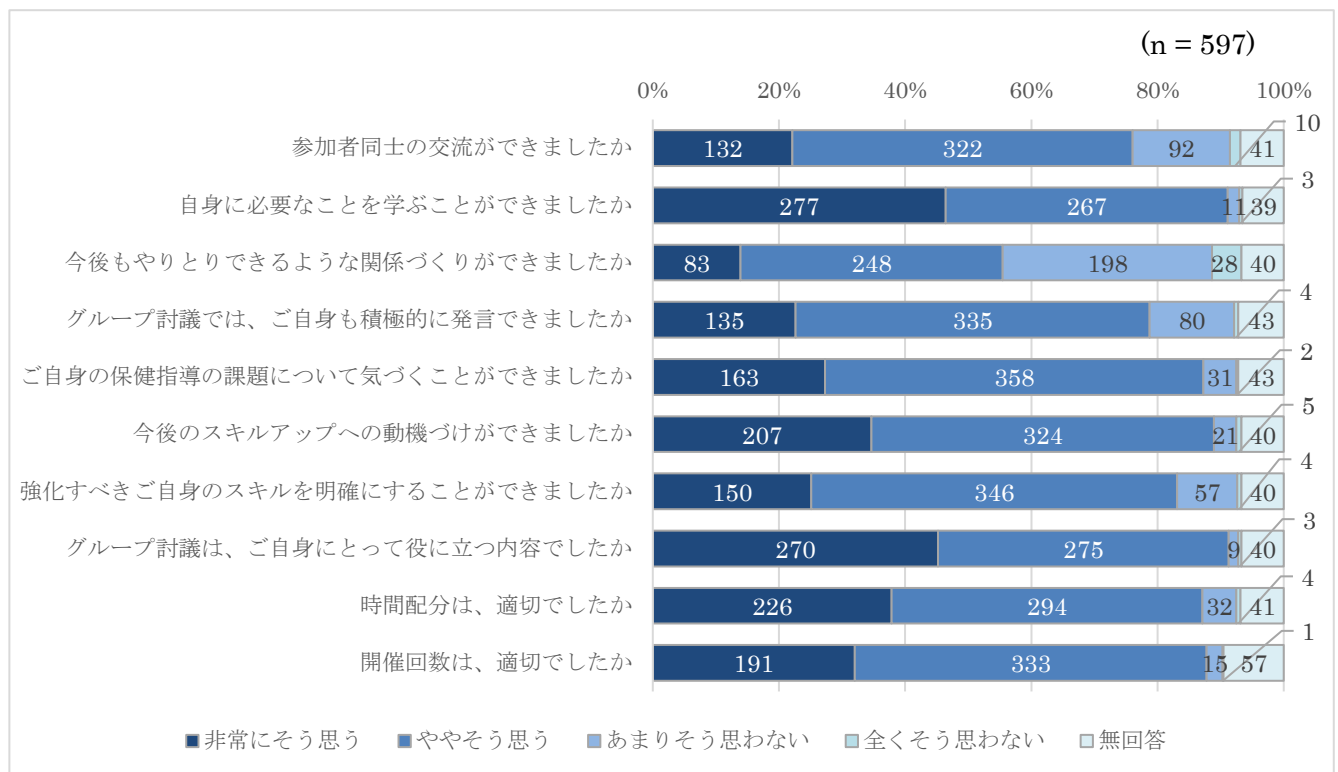
「スキルアップをしたいから」が316名（52.9%）、「興味あるテーマだから」が276名（46.2%）であった。

表3：保健指導ミーティングに参加した理由（複数回答）（n = 597）

スキルアップをしたいから	316名	52.9%
興味あるテーマだから	276名	46.2%
自身の実践を振り返る機会だから	151名	25.3%
日々の保健活動に課題を感じているから	125名	20.9%
参加費が無料だから	81名	13.6%
異なる所属や職種と交流したいから	80名	13.4%
友人・同僚等に誘われたから	76名	12.7%
興味ある講師だから	58名	9.7%
継続的に参加しているから	22名	3.7%
看護協会の研修を受けたいから	20名	3.4%
その他	66名	11.1%

● ミーティング参加後の評価

「グループ討議はご自身にとって役立つ内容でしたか」「自身に必要なことを学ぶことができましたか」の評価項目に対して『非常にそう思う』と『ややそう思う』と回答した割合が高かった。「グループ討議が役に立った」については、回答数は545名でアンケート回答者全体の91.3%、「自身に必要なことを学べた」は544名、91.1%であった。また、「今後のスキルアップへの動機づけができた」については531名、88.9%であった。



● 自由記載 (抜粋)

- ・ 様々な事例を通じて色々な視点、意見を聞くことができた。また、保健師の原点を見直すことで今後ケースにかかわる上で何を大事にするかを見出すことができ勉強になった。
- ・ 情報の見える化をすることで整理ができ、方向性に関しても導きやすくなることが実感できた。
- ・ 住民の健康への責任を持ち続けることの重要性に気づいた。
- ・ 事例検討によって項目ごとに整理し、全体像を把握することの重要性を感じた。
- ・ 保健師の仕事は組織的支援として動くことが多く、保健師同士や関係機関の「協力」なくしてより良い支援を成しえないということを今回の事例検討を通して学ぶことができた。

7) 企画運営の結果

(1) 保健指導ミーティングの開催概要

保健指導ミーティングの各府県看護協会のプログラム内容は以下の通りであった。

県協会	講演・講義	事例数	グループ討議 (構成)	事例・グループ討議のテーマ
山形県	講師1名 「妊娠期から子育てを支える支援とは」～医療モデルから子育て支援モデルへのシフト～	2例	7名×4グループ、8名×3グループ	○事例 ・妊娠期から子育て支援の連携等 ○討議テーマ ・実践事例報告を受けて、感じたこと。疑問に思ったこと ・地域で連携できる体制づくり
茨城県	講師1名 事例検討会の必要性・実践力UP事例検討会とは	6例	7～9人×6グループ	・特定保健指導1G, 介護予防2G, 精神保健1G, 母子保健2Gの6つのグループで出された事例について事例検討を実施
栃木県	講師1名 メンタルヘルスに関する課題を有する事例の支援について	5例	7～8人×5グループ	○事例 ・「糖尿病を合併している統合失調症患者の支援」等 ○討議テーマ ・実践力UP事例検討
		—	7～8人×5グループ編成 (新任期3G、中堅期2G)	○階層別にグループ討議 ・新任期：保健指導ミーティングを受けて気づいたこと、学んだこと ・中堅期：新任期の保健師が求める望ましい指導とは、本日の学び、気づき
埼玉県 1回目	講師2名 ・私のキャリアを考える ・面接の基礎	1例	研修生5～6人×6グループ	・面接の基礎 テーマ：「面接技術を学ぶ」（相談の受け取り方の癖、自分の特徴を知る） 主訴・見立て・関わり方のポイントを学ぶ。
埼玉県 2回目	講師1名 ・スキルアップにつながる事例検討会	1例	研修生5～6人・ファシリテーター1人・委員1人×6グループ	模擬事例を基に、情報の整理、アセスメントをして支援計画を立てる
千葉県	講師1名 ・「実践力アップ事例検討会」～アセスメントの深め方～	2例	8人×2グループ	○事例 ・高齢女性の結核治療支援等 ○討議テーマ ・高齢女性の治療へのモチベーション維持のポイントはどこになるのか

	・気づきを深めるためのアセスメントのポイント			
県協会	講演・講義	事例数	グループ討議 (構成)	事例・グループ討議のテーマ
富山県	講師1名 実践力アップのための事例検討会の必要性とその方法	5例	7～8人×5 グループ	○討議テーマ 事例検討 アセスメントから実施計画まで
愛知県 1回目	講師1名 「アセスメントを深めるためのファシリテーターの手引き」に基づいた事例検討のノウハウ	2例	21人×2 グループ	○事例 「特定妊婦への切れ目ない支援」等 ○討議テーマ 児の健全な子育てが行えない養育力の低い父母についての検討
愛知県 2回目	講師1名 「アセスメントを深めるためのファシリテーターの手引き」に基づいた事例検討のノウハウ	2例	19～20人×3 グループ	○事例 「特定保健指導対象者の行動変容を促す支援」等 ○討議テーマ 「やる気はあるが行動変容に結びつかないケースへの支援」
大阪府	講師1名 保健師の原点から学ぶ、今できる保健師の活動～個別事例から地域の支援～	5例	13人×5 グループ	○事例 「発達障害のある児を複数抱え、母の養育能力の低さからネグレクト状態になっている事例への支援」等 ○討議テーマ 事例検討 ①質疑応答による情報の整理 ②アセスメント ③支援の方向性と役割の確認 ④振り返り 事例検討後、グループワーク テーマ「事例検討会の進め方や実施してみたの感想」

県協会	講演・講義	事例数	グループ討議 (構成)	事例・グループ討議のテーマ
奈良県	講師 2 名 ・事例検討会を 検討するアセ スメントのポ イント ・キャリアラダ ーにおける事 例検討の重要 性	6 例	7 人 × 3 グル ープ、6 人 × 2 グループ、5 人 × 1 グルー プ	○事例 ・母がうつ病でパニック障害あり、母子手帳交付時 から継続フォロー中等 ○討議テーマ ・母の病気の再発予防等
和歌山 県	講師 2 名 ・高齢者支援に もつなげる生 活習慣病予防 ・事例検討の進 め方	2 例	9～10 人 × 2 グループ	○事例 「山間部に在住の ALS にて人工呼吸器を使用して いる在宅高齢者」等 ○討議テーマ ・事例検討（実践力 UP 事例検討会）実施 生活習慣病予防の事例 難病の事例 ・事例検討実施後の振り返り 事例検討を通じての気づき 今後の各職場における事例検討の実施について
鳥取県	講師 1 名 ガイダンス 「実践力 UP 事例 検討会を体験し よう」	2 例	2 グループ (11 人 × 1 グルー プ、13 人 × 1 グループ)	○事例 「アルコール依存症であるが通院を中断している ケース」等 ○討議テーマ ・看護協会の推進する事例検討会のやり方で事例 検討
岡山県	講師：0 名（発 表者あり） 「実践力アップ 事例検討会を体 験しよう！」	2 例	21 人 × 1 グル ープ	○事例 「減量に対する意欲はあるものの生活改善の行 動目標を継続することができない特定保健指導 を繰り返す心疾患等のリスクが高い事例」等 ○討議テーマ ・効果的な保健指導のあり方について
香川県	講師 1 名 「効果的な保健 指導と事例検 討」	5 例	5～6 人 × 7 グ ループ	○事例 「精神疾患のある患者への生活改善への働きか け」等 ○討議テーマ ①実践事例発表の気づき ②事例を通しての自らの保健指導の振り返り ③保健師同士のネットワーク形成 ④ファシリテーターの役割や技術を習得できる

県協会	講演・講義	事例数	グループ討議 (構成)	事例・グループ討議のテーマ
愛媛県	講師 2 名 入門編「実践力 UP 事例検討会と は」 ファシリテーター 編「気づきを 深めるためのフ ァシリテートの ポイント」	4 例	8～11 人×4 グ ループ	○事例 ・エジンバラ高値で子どもと離れたいという主訴があ る母親の事例等 ○討議テーマ ・実践力 UP 事例検討会を実践してみてもの振り返り ・今後、事業の中で活かすことができるかどうか
佐賀県	講師 1 名 相談支援の現場 から～保健師に 期待されること ～	6 例	6 人×1 グルー プ、 7 人×4 グループ、 8 人×1 グルー プ	○事例・討議テーマ 「I 型糖尿病を患う小学生への食生活改善に向けた支 援について」等

(2) 企画運営の工夫

各府県協会では、以下のような工夫を図り、保健指導ミーティングの成果につなげた。

- ・地域の看護大学の教授など学識者にコーディネーターや講師を依頼することで、事例検討のアセスメント力向上を図った。
- ・助産師職能と合同開催することで、地域の健康課題の解決に向け支援体制構築を図った。
- ・行政分野以外の領域に勤務する保健師の参加を図るため、多様な事例をテーマとした。
- ・中堅期保健師のファシリテーター研修を同日に開催することで、指導保健師となる中堅期保健師の指導力向上を図った。
- ・本会が平成 26 年度に開発した事例検討会の手法にある「グラウンドルール※」を徹底することで、参加者全員から発言を引き出せるよう配慮した。

※参考「アセスメントを深めるためのファシリテーターの手引き」(平成 26 年度厚生労働省保健指導支援事業 技術開発事業 平成 27 年 3 月, 公益社団法人日本看護協会)』

(3) 実施者（各府県看護協会保健師職能委員会）事後評価

- ・実施評価において、「目標が達成できるように、工夫してグループ討議を行えたか」「グループ討議では、参加者一人ひとりが発言できたか」について、14 府県看護協会が『非常にそう思う』と評価した。
- ・結果評価において、「参加者にとって、保健指導のスキルアップの動機づけのきっかけになったか」「参加者の満足を得ることができたか」について、12 府県看護協会が『非常にそう思う』と評価した。
- ・企画評価において、「事業の目的・目標の設定は適切だったか」「目的・目標について関係者間で事前に共有できていたか」「企画段階で、必要な人材の参加・協力を得られたか」について、13 府県看護協会が『非常にそう思う』と評価した。

4. 平成 30 年度まとめ

1) 到達目標について

①「新任保健師及び指導保健師（プリセプター）の保健指導のスキルアップの動機づけとなる」について

ミーティング参加後は9割の参加者から「自身に必要なことを学ぶことができた」、「自身の保健指導の課題について気づくことができた」、「今後のスキルアップの動機づけができた」「強化すべき自身のスキルを明確にすることができた」と回答があった。各府県看護協会の企画によって、本事業の目的・目標である自身の実践の振り返りや保健指導のスキルアップの動機づけが達成したと考えられる。一定の成果があったことが伺えた。

②「新任保健師の現任教育の手法が普及し、保健指導ミーティングを自立して実施できるようになる」について

参加者アンケートでは、「グループ討議は、自身にとって役立つ内容だった」が約9割「グループ討議で積極的に発言できた」に約8割の回答があり、各県看護協会のグループ分けの配慮や、ファシリテーターの声かけ等により保健指導ミーティングに積極的に参加できたと考えられる。

また、実施者（各府県看護協会保健師職能委員会）の考察とまとめからも、開催から11年を経て、保健指導ミーティングをきっかけに、県内各組織に事例検討会が定期的で開催され定着しつつあることが伺えた。

③「領域を超えた新任保健師及び指導保健師間のネットワーク形成が図られる」について

階層や領域を超えてのネットワーク形成は、1回の保健指導ミーティングの参加では難しいとの声もあった。地域包括ケアシステムの構築・推進に向け、多様な領域で働く保健師や多職種が一堂に会する機会は重要である。今後も保健指導ミーティングの定着に向けて継続的な開催が必要と考える。

5. 保健指導ミーティング 各県実施報告

山形県

特徴 今年度は地域の看護大学の協力を得ながら、妊娠期から子育て期への切れ目のない支援など母子保健の事例を中心に事例検討を展開した。

助産師職能と合同で事例検討会を実施することで、地域の多職種連携の体制づくりにつなげた。

【山形県】保健指導ミーティングの企画

目的

- ① 妊娠期から子育て期にわたる切れ目のない支援を目指して、保健師職能と助産師職能が協働して地域での支援体制を構築するにあたり、切れ目のない支援を進めていくための意義・方法について学ぶことを目的とする。

目標

- ① 切れ目のない支援を進めていくための意義を理解する。
 ② 切れ目のない支援を進めていくための方法について理解する。
 ③ 医療モデルから子育て支援モデルへシフトするための連携について考える。
 ④ 保健師と助産師が協働で地域支援体制について考える。

保健指導ミーティングのための事前打合せ

県協会	回数	参加者	内容
山形県	2回	職能委員（保健師・助産師）	<ul style="list-style-type: none"> ・スケジュールの確認 ・内容及び進め方の検討 ・研修企画運営にかかる役割分担 ・評価方法について検討 ・研修参加の呼びかけのチラシの作成 ・研修に関する評価、保健指導ミーティングについて評価を加えてのアンケート用紙の作成を検討 ・グループミーティングの進め方について検討 ・研修運営にかかる役割分担の決定

周知（多様な領域で働く保健師へ周知するために工夫したこと）

県協会	内容
山形県	<ul style="list-style-type: none"> ・保健師職能委員の各所属に対するメールリストによる参加の呼びかけを実施 ・県看護協会ホームページ 平成30年度 山形県看護協会教育計画一覧に掲載 ・地域保健人材育成検討会で研修企画を周知 ・山形県保健師長会へ周知を依頼

【山形県】保健指導ミーティングの実施

プログラム構成

時間	プログラム	関連する目標
10:00	開会	
10:10～12:00	1 講演 「妊娠期から子育てを支える支援とは」 ～医療モデルから子育て支援モデルへのシフト～ 講師：大阪府立病院機構大阪母子医療センター 母子保健情報センター顧問 佐藤 拓代 氏	①、③
12:00～13:00	休憩	
13:00～14:00	2 実践事例発表 コーディネーター：山形大学医学部看護学科 准教授 森鍵 祐子氏 助言者：大阪府立病院機構大阪母子医療センター 母子保健情報センター顧問 佐藤 拓代 氏 妊娠期から子育て支援の連携等 2 事例（1 事例 3 0 分質疑応答含む） ①病院における妊娠期から子育て期への切れ目のない支援について ～産後ケアのショートステイの事例を通して～ 社会福祉法人恩賜財団済生会山形済生病院 看護師長 秋場 恵美氏 ②寒河江市子育て世代包括支援センターの活動 ～多職種連携の視点～ 寒河江市子育て推進課 すくすく健康係 主査 笹原 美恵子 氏	①、②、③、 ④
14:00～14:10	休憩	
14:10～15:10	3 実践事例の検討 コーディネーター（説明 1 0 分） 山形大学医学部看護学科 准教授 森鍵 祐子氏 グループワーク 6 0 分 ①実践事例報告を受けて、感じたこと。疑問に思ったこと。 ②地域で連携できる体制づくり	①、②、③、 ④
15:10～16:55	グループ代表発表 4 5 分 講師講評：佐藤氏、森鍵氏	
16:55～	閉会・謝辞	

実践事例発表の概要①
(1)事例発表者の所属領域：行政 (2)事例発表者の助産師経験年数：約 25 年 (3)発表タイトル：病院における妊娠期から子育て期への切れ目のない支援について ～産後ケアのショートステイの事例を通して～
実践事例発表の概要②
(1)事例発表者の所属領域：行政 (2)事例発表者の保健師経験年数：約 年 (3)発表タイトル：寒河江市子育て世代包括支援センターの活動 ～多職種連携の視点～

グループ討議

構成	7名×4グループ 8名×3グループ
討議のテーマ	①実践事例報告を受けて、感じたこと。疑問に思ったこと。 ②地域で連携できる体制づくり
討議で工夫した点	4つの地域医療圏域ごとに保健師・助産師の混合のグループとした。 共通のテーマを保健師・助産師が意見交換し、地域での協働や連携について顔の見える関係づくりに繋げることを目的とした。

【山形県】保健指導ミーティングの評価・考察

【実施評価】(4.非常にそう思う 3.ややそう思う 2.あまりそう思わない 1.全くそう思わない)

評価項目	山形県
①新任の保健師が自らの実践事例を発表することができたか。	2
②様々な領域から新任期の保健師を集められたか	2
③数多くの保健師の参加が得られたか	3
④目標が達成できるように、実践事例発表を行えたか	4
⑤目標が達成できるように、工夫してグループ討議を行えたか	4
⑥グループ討議では、参加者一人ひとりが発言できたか	4
⑦ファシリテーターは、目標が達成できるようにグループ討議を進行できたか	4
⑧プログラム内容は参加者に適したものであったか(参加者の反応等からの評価)	4
⑨プログラム運営に必要な人員・人材を確保できたか	4

【結果評価】(4.非常にそう思う 3.ややそう思う 2.あまりそう思わない 1.全くそう思わない)

評価項目	山形県
①新任の保健師が自身の実践を振り返ることができたか	3
②新任の保健師が自身の強化すべきスキルに気付くことができたか	3
③参加者同士が、業務に関連する情報交換ができるような仲間づくりができたか	4
④参加者同士が、業務に関連する連携ができるような見通しがたったか	4
⑤参加者にとって、自身の考え方や行動の問題点を意識する機会となったか	3
⑥参加者にとって、保健指導のスキルアップの動機付けのきっかけになったか	4
⑦指導保健師(プリセプター)にとって、新任保健師への関わり方を振り返るきっかけになったか	3
⑧参加者の満足を得ることができたか	4
⑨県協会と関係機関等が、連携して保健師の人材育成に取り組める関係性を構築できたか。	4

【企画評価】(4.非常にそう思う 3.ややそう思う 2.あまりそう思わない 1.全くそう思わない)

	山形県
①新任の保健師を主な対象とした事業として適切な企画内容だったか	3
②保健指導ミーティングの開催時期・開催場所・実施時間は適切だったか	3
③多様な領域の保健師の参加が得られるよう、周知できたか	3
④多様な領域の保健師の参加を得るために適切な企画内容だったか	3
⑤事業の目的・目標の設定は適切だったか	4
⑥目的・目標について関係者間で事前共有できていたか	4
⑦事業の目的・目標に対し、プログラムの構成・内容は適切だったか	4
⑧企画段階で、必要な人材の参加・協力を得られたか	4
⑨関係機関等と協働・連携するための働きかけはできたか	4

山形県

【実施評価】

今回のテーマは保健師の地域における母子保健活動に、助産師が協働し、共に連携を進めるための研修であり、企画した内容については目的を達成できた。特にグループミーティングでは地域を意識してグループメンバーを構成したことで地域の共通課題を積極的に意見交換することができた。実施体制としては保健師、助産師職能委員が運営に参加し人員は十分に確保できた。

【結果評価】

参加者の半数が20～30歳代の新任保健師や、プリセプターを担っている保健師、助産師であり、実践発表は病院と自治体の地域医療連携についてであり、今後の取組みの参考となる内容であった。グループミーティングでは年齢層を混合にしていることから新任期にとってのモデルとなり、スキルアップの動機づけの機会となった。

【企画評価】

保健師・助産師職能委員の合同での打合せを行い、目的・目標を確認しながら研修テーマやプログラムを企画し、講師選定を行った。

子どもと子育て世代地域包括ケアシステムの体制推進に向けて、関係者が共通認識をもって研修企画運営にあたることができた。

【山形県】まとめ

講義の後に県内での実践事例発表を行い、当事者意識を持ってグループミーティングを行ったこと、グループを地域医療圏域ごとに構成し、各地域の実情に沿った意見交換が行われ、連携が推進された。

保健師と助産師が共通のテーマで研修を行ったことで地域の課題の共有や今後の連携に繋がり、今回の研修プログラムは有効であったと言える。

新任期の保健師にとって地域の連携を進める機会となった。

茨 城 県

特徴 特定健診や介護領域も含めた6事例を検討したため、医療や福祉領域の保健師の参加が増加し、地域の課題を各職域の保健師間で検討することが出来た。

【茨城県】保健指導ミーティングの企画

目的

- ① 新任期及び指導保健師のスキルアップを図る。
- ② ファシリテーター・板書係などの役割を通し、効果的な個別事例のアセスメントを学ぶ。
- ③ 各職域の保健師の交流ができる。

目標

- ① 新任保健師
事例検討会のやり方を理解し、アセスメント能力を伸ばす契機とすることができる。
実践事例の検討を通し、自身の実践を振り返ることができる。
自身の強化すべきスキルに気づくことができる。
- ② 指導保健師
新任保健師の目標が到達できるよう支援ができる。
問題解決のための手段としての事例検討会を通し、新任保健師への指導に活かすことができる。
- ③ 共通
保健師活動における事例検討の重要性を理解できる。
領域を超えてお互いの活動を知ることができ、保健師間で連携・交流をはかる機会となる。

保健指導ミーティングのための事前打合せ

県協会	回数	参加者	内容
茨城県	2回	職能委員、講師、 ファシリテーター、 実践事例発表者	<ul style="list-style-type: none">・目的、目標、当日の実施内容と方法について・検討事例の収集について・ファシリテーターの役割の確認とグループワークの進め方の確認・ファシリテーターと事例提供者の情報共有・役割、タイムスケジュールの最終確認

周知（多様な領域で働く保健師へ周知するために工夫したこと）

県協会	内容
茨城県	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県看護協会から個人会員及び会員施設（行政、産業、健診、医療、地域包括支援センターその他保健師の所属する勤務先）に開催案内を送付 ・ 県人材育成担当者から保健所と市町村の統括保健師宛にメールで開催案内 ・ 県看護協会HPにて周知 ・ 県看護協会から会員外の市町村、地域包括支援センター等に開催案内を送付 ・ 産業領域、健診機関の保健師に対して、県看護協会から保険者協議会会員に開催案内を送付 ・ 県看護協会ホームページにて周知

【茨城県】保健指導ミーティングの実施

プログラム構成

時間	プログラム	関連する目標
13:30	開会 挨拶 オリエンテーション 保健指導ミーティングのねらいと説明	③
13:40～14:50	事例検討会デモンストレーション DVD 視聴 講義： 事例検討会の必要性・実践力 UP 事例検討会とは 講師：つくば市 保健福祉部健康増進課 統括保健師 小野村 順子 氏	① ② ③
14:50～16:10	グループワーク 自己紹介 役割分担等 【演習】実践力 UP 事例検討会の実施（6事例）	① ② ③
16:10～16:30	全体討議 まとめ	① ② ③
16:30	閉会	

実践事例発表

実践事例発表の概要
(1)事例発表者の所属領域：行政 (2)事例発表者の保健師経験年数：約 5年 (3)発表タイトル：障がい児をもつ家族のかかわり（母子保健）
実践事例発表の概要
(1)事例発表者の所属領域：行政 (2)事例発表者の保健師経験年数：約 2年 (3)発表タイトル：家族の支援を拒否する若年産婦の対応（母子保健）

実践事例発表の概要
(1)事例発表者の所属領域： (2)事例発表者の保健師経験年数：約 1 年 (3)発表タイトル：家族の支援が望めない認知症ケースの関わり（介護予防）

実践事例発表の概要
(1)事例発表者の所属領域： (2)事例発表者の保健師経験年数：約 3 年 (3)発表タイトル：定年後も生きがいを持って生活を続けたい若年アルツハイマーの方への支援（介護予防）

実践事例発表の概要
(1)事例発表者の所属領域：医療 (2)事例発表者の保健師経験年数：約 2 年 (3)発表タイトル：統合失調症のある方のメタボ改善方法について（生活習慣病）

実践事例発表の概要
(1)事例発表者の所属領域：行政 (2)事例発表者の保健師経験年数：約 2 年 (3)発表タイトル：高齢の親とひきこもりの息子が抱える問題への支援と介入方法（精神保健）

グループ討議

構成	7～9人 × 6グループ
討議のテーマ	特定保健指導 1G, 介護予防 2G, 精神保健 1G, 母子保健 2G の 6つのグループで出された事例について事例検討を実施した。
討議で工夫した点	<ul style="list-style-type: none"> ・全員が発言できるよう参加者の意見を引き出すことに配慮した。 ・参加者が事例検討の目的を理解し、アセスメントやその過程の共有や振り返りができるようホワイトボードを使用することによって可視化し、情報の整理を行った。 ・ファシリテーター、板書係、事例提供者それぞれの役割が理解でき、参加者から、多くの意見を引き出し、より良い支援策につながるような円滑な進行を心掛けた。 ・事例提供者や発言者に対し、非難や否定的な意見がでないようグラウンドルールを徹底した。

【茨城県】保健指導ミーティングの評価（考察）

【実施評価】(4. 非常にそう思う 3. ややそう思う 2. あまりそう思わない 1. 全くそう思わない)

評価項目	茨城県
①新任の保健師が自らの実践事例を発表することができたか。	4
②様々な領域から新任期の保健師を集められたか	4
③数多くの保健師の参加が得られたか	4
④目標が達成できるように、実践事例発表を行えたか	4
⑤目標が達成できるように、工夫してグループ討議を行えたか	4
⑥グループ討議では、参加者一人ひとりが発言できたか	4
⑦ファシリテーターは、目標が達成できるようにグループ討議を進行できたか	4
⑧プログラム内容は参加者に適したものだっか（参加者の反応等からの評価）	4
⑨プログラム運営に必要な人員・人材を確保できたか	4

【結果評価】(4. 非常にそう思う 3. ややそう思う 2. あまりそう思わない 1. 全くそう思わない)

評価項目	茨城県
①新任の保健師が自身の実践を振り返ることができたか	4
②新任の保健師が自身の強化すべきスキルに気付くことができたか	3
③参加者同士が、業務に関連する情報交換ができるような仲間づくりができたか	3
④参加者同士が、業務に関連する連携ができるような見通しがたったか	3
⑤参加者にとって、自身の考え方や行動の問題点を意識する機会となったか	4
⑥参加者にとって、保健指導のスキルアップの動機付けのきっかけになったか	4
⑦指導保健師（プリセプター）にとって、新任保健師への関わり方を振り返るきっかけになったか	3
⑧参加者の満足を得ることができたか	4
⑨県協会と関係機関等が、連携して保健師の人材育成に取り組める関係性を構築できたか。	3

【企画評価】(4. 非常にそう思う 3. ややそう思う 2. あまりそう思わない 1. 全くそう思わない)

評価項目	茨城県
①新任の保健師を主な対象とした事業として適切な企画内容だったか	4
②保健指導ミーティングの開催時期・開催場所・実施時間は適切だったか	4
③多様な領域の保健師の参加が得られるよう、周知できたか	4
④多様な領域の保健師の参加を得るために適切な企画内容だったか	4
⑤事業の目的・目標の設定は適切だったか	4
⑥目的・目標について関係者間で事前共有できていたか	4
⑦事業の目的・目標に対し、プログラムの構成・内容は適切だったか	4
⑧企画段階で、必要な人材の参加・協力を得られたか	4
⑨関係機関等と協働・連携するための働きかけはできたか	4

茨城県

【実施評価】

- ・事例検討ではファシリテーターと板書係を中堅期保健師が行ったため、スムーズに進行ができ、新任保健師は事例検討に集中でき、活発な意見交換が行えた。
- ・事例検討に特定保健指導・介護予防を入れることにより、医療領域や福祉領域の保健師の参加者の増加につながった。また、それぞれの保健指導の振り返りがすることができた。
- ・他領域・他施設で活動している保健師と交流ができ、自分の担当以外の領域の事例について考えることができる良い機会となった。

【結果評価】

- ・ケースを一人で抱えるのではなく、チームでアセスメントすることで解決の糸口を見つけ、チームで支援していくことの重要性が共通認識できた。
- ・GWでは、自分とは違った視点の意見を聞くことができ、自分では気づかない部分や思考の傾向に気づく良い機会となった。
- ・支援を前提としたアセスメントではなく、当事者が何を求めているのかを念頭に置いた支援が大切だと認識でき、アセスメントのスキルアップにつながった。
- ・新任期の保健師の参加が多くみられ、事例検討を通して交流ができた。

【企画評価】

- ・提供のあった事例は困難事例が多く、研修会当日でなく、事前に事例の内容を確認し、提供者とファシリテーターを含めた打ち合わせが必要である。

【茨城県】まとめ

保健師職能研修会では、保健指導ミーティングを継続して実施してきた。新任期であっても処遇困難な事例が多く、保健指導ミーティングの手法を用いた事例検討会は、保健師のアセスメント能力の強化に有効であり、今後も継続できると良い。

栃 木 県

特徴 午前中に5事例を新任保健師、中堅期保健師混合のグループでそれぞれ検討し、アセスメント能力向上を図った。午後は、階層別にわかれたグループで午前中の内容を振り返り、学んだことの定着を図った。

【栃木県】保健指導ミーティングの企画

目的

- ① 新任期の保健師が実践をとおして、保健指導や支援のあり方を検討することで保健指導のスキルアップを図る。
- ② 新任期の保健師を指導するプリセプターの役割を果たす中堅期の保健師が、新任保健師の実践事例の検討に加わり助言することで新任期への保健指導のあり方を考える。
- ③ 研修をとおして階層や職域を越えた保健師間のネットワークの強化を図る。

目標

- ① 実践力アップ事例検討を実施し体験し、その有効性に気づく。
- ② 実践力アップ事例検討の実施方法や留意点を理解し、職場での活用ができる。
- ③ 個々の参加者が自己の保健指導を振り返り、それぞれの課題に気づく。
- ④ 中堅期保健師として新任保健師の支援における役割や支援方法の振り返りができる。
- ⑤ 多様な領域や階層の保健師とともに事例検討や意見交換を行うことで、参加者の相互理解を深める。

保健指導ミーティングのための事前打合せ

県協会	回数	参加者	内容
栃木県	4回	職能委員、コーディネーター、講師	<ul style="list-style-type: none"> ・開催日の決定、研修の流れの確認 ・事例（領域）及びテーマの検討 ・講師の人選 ・受講申し込み者の背景、グループワーク、講義の流れ等を確認 ・事例傾向を考慮し、講師候補の検討 ・コーディネーターの決定 ・グループ編成の決定 ・検討事例の決定 ・当日の運営についての最終確認 ・研修当日の流れについて説明 ・提供事例の説明、当日の参加申込状況について ・会場借用の際の留意点等の確認

周知（多様な領域で働く保健師へ周知するために工夫したこと）

県協会	内容
栃木県	<ul style="list-style-type: none"> ・対象となる会員の所属組織（行政・産業・医療機関・福祉施設等）へ研修案内を郵送周知 ・県内の保健師の任意団体（市町村保健師業務研究会、県職保健師会、産業保健師会等）への情報提供 ・看護協会の会員のいない組織にも（行政等）研修案内を郵送 ・県看護協会ホームページへ開催要項を掲載し情報提供

【栃木県】保健指導ミーティングの実施

プログラム構成

時間	プログラム	関連する目標
10:00	開会	
10:10~12:00	実践力UP事例検討会（5グループ編成） 1 事例検討の進め方等の説明 2 実践事例発表 ① 「メンタルの既往がある母親への支援」 発表者：宇都宮市役所 高橋 麻理乃氏 ② 「糖尿病を合併している統合失調症患者の支援」 発表者：県西健康福祉センター 若林 知美氏 ③ 「乳児をもつ統合失調症患者の退院後の支援」 発表者：県東健康福祉センター 荒井 未奈子氏 ④ 「うつ病を合併する糖尿病患者の支援」 発表者：とちぎメディカルセンターとちのき 関根 貞子氏 ⑤ 「間食がやめられない糖尿病患者の支援」 発表者：真岡市役所 高瀬 綾佳氏 3 各グループでの検討状況発表	①、③
12:00~13:00	休憩	
13:00~14:20	グループ討議(階層別に5グループ編成) 新任期グループ：保健指導ミーティングを受けて気づいたこと、学んだこと 中堅期グループ：新任期の保健師が求める望ましい指導とは、本日学んだ気づき	④、⑤
14:20~14:30	休憩	
14:30~16:00	講義：メンタルヘルスに関する課題を有する事例の支援について ～保健指導スキルを上げるために～ 講師：自治医科大学看護学部 教授 永井 優子氏	②
16:00	閉会	

実践事例発表の概要

①母子保健事例 1

- (1)事例発表者の所属領域：行政
- (2)事例発表者の保健師経験年数：約 1 年
- (3)発表タイトル：「メンタルの既往がある母親への支援」

②精神保健事例 1

- (1)事例発表者の所属領域：行政
- (2)事例発表者の保健師経験年数：約 1 年
- (3)発表タイトル：「糖尿病を合併している統合失調症患者の支援」

③精神保健事例 2

- (1)事例発表者の所属領域：行政
- (2)事例発表者の保健師経験年数：約 1 年
- (3)発表タイトル：「乳児をもつ統合失調症患者の退院後の支援」

④生活習慣病事例 1

- (1)事例発表者の所属領域：行政
- (2)事例発表者の保健師経験年数：約 1 年
- (3)発表タイトル：「うつ病を合併する糖尿病患者の支援」

⑤生活習慣病事例 2

- (1)事例発表者の所属領域：行政
- (2)事例発表者の保健師経験年数：約 1 年
- (3)発表タイトル：「間食がやめられない糖尿病患者の支援」

構成	1グループ 7～8人 × 5グループ編成
討議の テーマ	実践力UP事例検討 自らの保健指導を振り返りながら、検討事例の情報整理、アセスメント、具体的な支援策について検討する一連のプロセスを学ぶ。
討議で 工夫した点	<ul style="list-style-type: none"> ・参加者が事例検討の全体の流れを体験しやすいように、各グループのファシリテーター・板書係は職能委員が担当した。なお、円滑な進行ができるよう、事前に職能委員全体で事例検討会について事前学習会を行った。 ・参加者の希望により、母子保健・生活習慣病・精神保健の3種類5グループとした。グループ編成に際しては、勤務している領域、所属組織の地域、経験年数等を考慮して、グループメンバーを決定した。 ・円滑な進行ができるよう研修当日の開会前に、事例提供者、ファシリテーター、板書係の打合せを実施した。 ・コーディネーターがタイムキーパー役となり、事例検討の各段階の時間管理を行うと共に、各グループを巡回し、検討の進め方について必要に応じて助言等を行った。 ・グループメンバー全員がホワイトボードを見ながら検討できるよう、必要な事項はホワイトボードに記載した。

構成	1グループ7～8人 × 5グループ編成 (新任期3G、中堅期2G)
討議の テーマ	<p>新任期、中堅期に分かれて事例検討会の体験を踏まえて以下のテーマでの話し合いを実施。</p> <p>新任期：保健指導ミーティングを受けて気づいたこと、学んだこと</p> <p>中堅期：新任期の保健師が求める望ましい指導とは、本日の学び、気づき</p>
討議で 工夫した点	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマに沿って話しやすくするため、新任期と中堅期とを分けてグループ編成を行った。 ・いろいろな領域の保健師との交流ができるように、グループのメンバー構成を行政ばかりに偏らないように考慮した。 ・テーマは大まかなものとし、それぞれのグループで自由な意見交換ができるよう、検討時間を多めにとるように配慮した。

【栃木県】保健指導ミーティングの評価（考察）

【実施評価】（4.非常にそう思う 3.ややそう思う 2.あまりそう思わない 1.全くそう思わない）

評価項目	栃木県
①新任の保健師が自らの実践事例を発表することができたか。	3
②様々な領域から新任期の保健師を集められたか	2
③数多くの保健師の参加が得られたか	4
④目標が達成できるように、実践事例発表を行えたか	4
⑤目標が達成できるように、工夫してグループ討議を行えたか	4
⑥グループ討議では、参加者一人ひとりが発言できたか	4
⑦ファシリテーターは、目標が達成できるようにグループ討議を進行できたか	4
⑧プログラム内容は参加者に適したものだっか（参加者の反応等からの評価）	4
⑨プログラム運営に必要な人員・人材を確保できたか	4

【結果評価】（4.非常にそう思う 3.ややそう思う 2.あまりそう思わない 1.全くそう思わない）

評価項目	栃木県
①新任の保健師が自身の実践を振り返ることができたか	4
②新任の保健師が自身の強化すべきスキルに気付くことができたか	4
③参加者同士が、業務に関連する情報交換ができるような仲間づくりができたか	3
④参加者同士が、業務に関連する連携ができるような見通しがたったか	3
⑤参加者にとって、自身の考え方や行動の問題点を意識する機会となったか	4
⑥参加者にとって、保健指導のスキルアップの動機付けのきっかけになったか	4
⑦指導保健師（プリセプター）にとって、新任保健師への関わり方を振り返るきっかけになったか	4
⑧参加者の満足を得ることができたか	4
⑨県協会と関係機関等が、連携して保健師の人材育成に取り組める関係性を構築できたか。	4

【企画評価】（4.非常にそう思う 3.ややそう思う 2.あまりそう思わない 1.全くそう思わない）

評価項目	栃木県
①新任の保健師を主な対象とした事業として適切な企画内容だったか	4
②保健指導ミーティングの開催時期・開催場所・実施時間は適切だったか	4
③多様な領域の保健師の参加が得られるよう、周知できたか	3
④多様な領域の保健師の参加を得るために適切な企画内容だったか	4
⑤事業の目的・目標の設定は適切だったか	4
⑥目的・目標について関係者間で事前共有できていたか	4
⑦事業の目的・目標に対し、プログラムの構成・内容は適切だったか	4
⑧企画段階で、必要な人材の参加・協力を得られたか	4
⑨関係機関等と協働・連携するための働きかけはできたか	4

栃木県

【実施評価】

- ・今年度も研修スタッフや会場等の事情から募集定員を30名としたが、参加希望者が多かったため37名の受講を予定した。実施は特に問題はなかった。
- ・今年も行政保健師の受講が多かったが、医療機関勤務の保健師がこれまでより大幅に増加した。また、昨年度に引き続き産業保健師の参加がなかった。各領域間の交流のためにはいろいろな領域へのアプローチが必要と思われる。
- ・今年は本人の希望により、看護師の参加があった。職種による事例をみる視点にも違いがあることがわかり、相互理解につながった。地域の中での看護職間の連携を密にするためには、保健師以外の参加希望者の研修受け入れも有効であると思われる。
- ・自身の活動事例の要約を体験することも学びの一つであるため、今年度も参加者全員に活動事例の提出を求めた。未提出者も数名あったが、概ね提出期限までに提出された。事例検討会で使用しなかった事例については、午後の講義の際に講師から助言等のコメントをしてもらった。

【結果評価】

- ・受講後のアンケート結果から、概ね研修の目的は達成されていると思われる。ただ、領域間での相互交流については、参加者の活動領域に偏りがあったため十分とは言いがたい。今後は、行政以外の領域で活動する保健師の参加を増やしていくことが課題である。
- ・今年も新任保健師の参加が多く、中堅期保健師の参加が十分ではなかった。中堅期の保健師は他の研修会でも参加率が低い状況である。今後、中堅期保健師の参加を増やすための方策を検討していきたい。

【企画評価】

- ・開催時期には他の団体の研修等と重複しないよう、事前の調整を行って決定した。
- ・会場は毎年使用している会場を今年度も使用した。大学のキャンパス内で広いため会場案内図を通知に同封した。今年は大学構内で迷う参加者はいなかった。
- ・今後、行政以外の領域の保健師の参加者を確保するために、産業保健師の団体等に更なる働きかけを行っていきたい。

【栃木県】まとめ

- ・受講者は一様に事例検討の場の必要性を感じているが、職場に戻って事例検討会を職場内で定例化していくためには、管理的な立場にある保健師の理解が必要である。栃木県内において、定例的に事例検討会を位置づけて実施している自治体も少しずつ増えてはいるものの、まだ実施されていない所が多い、そのため今後はそれぞれの施設の管理的な立場にある保健師への働きかけを行っていく必要があると思われる。

埼玉県

特徴 保健師専門研修として開催し、第1回ではキャリア形成や面接の基礎、事例検討を学び、第2回では事例検討会のスキルアップについて学べるよう工夫し、約半数の参加者が2回とも受講した

【埼玉県】保健指導ミーティングの企画

目的

- ① 新任保健師が、個別指導の基礎的な知識と技術について、演習を通じて学び、保健師活動の意義を認識できるようにする。保健師としての意欲を高め、資質向上につなげる。

目標

- ① 事例検討の演習により、情報収集及びアセスメント能力を向上させる。
- ② 事例に即した支援について、多角的な視点の必要性を認識できる。

保健指導ミーティングのための事前打合せ

県協会	回数	参加者	内容
埼玉県	1回	職能委員、ファシリテーター	・研修プログラムの説明と役割分担の検討・確認

周知（多様な領域で働く保健師へ周知するために工夫したこと）

県協会	内容
埼玉県	・関連施設、保健所17施設、保健センター69施設へ案内通知・チラシを郵送 ・県協会ホームページに研修案内を掲載

【埼玉県】保健指導ミーティングの実施

《1回目》

プログラム構成

時間	プログラム	関連する目標
9:30~9:45	開会・挨拶	
9:45~10:30	講義「私のキャリアを考える」 講師：東都医療大学 看護学科 永井 健太 氏	
10:30~10:40	休憩	
10:40~12:00	講義「面接の基礎」 講師：カウンセリングルームベア 代表 済生会川口総合病院相談室 田熊 喜代巳 氏（臨床心理士）	① ②
12:00~13:00	昼食	
13:00~14:00	グループワーク	① ②
14:00~15:00	グループ発表・講評	① ②
15:00~15:10	休憩	
15:10~15:40	グループワーク	① ②
15:40~16:00	グループ発表・講評	① ②
16:00	閉会	

グループ討議

構成	研修生 5~6 人 × 6 グループ
討議の テーマ	面接の基礎 テーマ：「面接技術を学ぶ」（相談の受け取り方の癖、自分の特徴を知る） 主訴・見立て・関わり方のポイントを学ぶ。
討議で 工夫した点	1 グループあたりのメンバーを 6 人以内にし、皆が発言しやすいようにした。

《2回目》

プログラム構成

時間	プログラム	関連する目標
9:30~9:45	開会・挨拶	
9:45~10:45	講義「スキルアップにつながる事例検討会」 講師：武蔵野大学 看護学部 看護学科 ティーチングアシスタント 橋本 結花 氏	① ②
10:45~11:00	休憩	
11:00~11:45	事例検討デモンストレーション グループごとに担当決定（司会・記録・発表）	① ②
11:45~12:45	昼食	
12:45~13:00	検討事例の紹介	① ②
13:00~14:10	グループワーク	① ②
14:10~14:20	休憩	
14:20~14:50	グループ発表	① ②
14:50~15:10	講評	① ②
15:10~15:40	グループワーク	① ②
15:40~15:55	グループ発表	① ②
15:55~16:00	講評・閉会	① ②

グループ討議

構成	研修生 5~6人 ・ファシリテーター1人・委員1人× 6グループ
討議の テーマ	模擬事例を基に、情報の整理、アセスメントをして支援計画を立てる。
討議で 工夫した点	1グループあたりのメンバーを6人以内にし、皆が発言しやすいようにした。

【埼玉県】保健指導ミーティングの評価（考察）

【実施評価】(4. 非常にそう思う 3. ややそう思う 2. あまりそう思わない 1. 全くそう思わない)

評価項目	埼玉県
①新任の保健師が自らの実践事例を発表することができたか。	1
②様々な領域から新任期の保健師を集められたか	3
③数多くの保健師の参加が得られたか	4
④目標が達成できるように、実践事例発表を行えたか	1
⑤目標が達成できるように、工夫してグループ討議を行えたか	4
⑥グループ討議では、参加者一人ひとりが発言できたか	4
⑦ファシリテーターは、目標が達成できるようにグループ討議を進行できたか	4
⑧プログラム内容は参加者に適したものだったか（参加者の反応等からの評価）	4
⑨プログラム運営に必要な人員・人材を確保できたか	4

【結果評価】(4. 非常にそう思う 3. ややそう思う 2. あまりそう思わない 1. 全くそう思わない)

評価項目	埼玉県
①新任の保健師が自身の実践を振り返ることができたか	4
②新任の保健師が自身の強化すべきスキルに気付くことができたか	4
③参加者同士が、業務に関連する情報交換ができるような仲間づくりができたか	2
④参加者同士が、業務に関連する連携ができるような見通しがたったか	2
⑤参加者にとって、自身の考え方や行動の問題点を意識する機会となったか	4
⑥参加者にとって、保健指導のスキルアップの動機付けのきっかけになったか	4
⑦指導保健師（プリセプター）にとって、新任保健師への関わり方を振り返るきっかけになったか	3
⑧参加者の満足を得ることができたか	4
⑨県協会と関係機関等が、連携して保健師の人材育成に取り組める関係性を構築できたか。	1

【企画評価】(4. 非常にそう思う 3. ややそう思う 2. あまりそう思わない 1. 全くそう思わない)

評価項目	埼玉県
①新任の保健師を主な対象とした事業として適切な企画内容だったか	4
②保健指導ミーティングの開催時期・開催場所・実施時間は適切だったか	2
③多様な領域の保健師の参加が得られるよう、周知できたか	3
④多様な領域の保健師の参加を得るために適切な企画内容だったか	3
⑤事業の目的・目標の設定は適切だったか	4
⑥目的・目標について関係者間で事前共有できていたか	4
⑦事業の目的・目標に対し、プログラムの構成・内容は適切だったか	4
⑧企画段階で、必要な人材の参加・協力を得られたか	4
⑨関係機関等と協働・連携するための働きかけはできたか	3

埼玉県

【実施評価・結果評価・企画評価】

・埼玉県では、階層別研修を県主催で丁寧に行われており、県全体と保健所管内ごとの開催が継続している。看護協会としては、県の研修では不足していると考えられる個別ケースの支援技術、連携技術について取り上げている。グループワークを多くしているので、結果として参加者同士で関係性を構築できていると考えられる

【埼玉県】まとめ

行政保健師をターゲットにしているため、特定健診、特定保健指導の業務に就いている行政以外の参加者にとって不十分な企画であることが懸念されたが、アンケートからは「必要なことを学ぶことができた」との回答が得られた。また、グループワークにおいて行政とそれ以外の保健師のアセスメント技術の差が見受けられており、今後の課題である。

千葉県

特徴 講演でアセスメントの深め方を学んだ後で、高度な支援技術を要する高齢女性の結核治療支援などの事例について事例検討した。

【千葉県】保健指導ミーティングの企画

目的

- ① 新任期の保健師が互いの保健指導の実践を振り返ることを通して、個別支援の重要性及びそれに必要なスキルアップのための自己研鑽やOJTの必要性を認識する。
- ② 千葉県内において実践力を高めるための保健指導ミーティングが普及すること。

目標

- ① 新任保健師が個別の保健指導をしっかりとできるようになることが、保健活動の展開上重要なことであると認識すること。
- ② 新任保健師が保健指導ミーティングに参加することで、実践力アップにつながると感じられるようにすること。
- ③ 保健所、市町村保健センター、地域包括支援センター、一般行政機関及び産業に所属する保健師が、それぞれの役割を理解し、参加者のネットワーク形成が図られる。

保健指導ミーティングのための事前打合せ

県協会	回数	参加者	内容
千葉県	2回	職能委員、ファシリテーター、講師、その他：(総務課担当事務職)	<ul style="list-style-type: none"> ・DVD「アセスメントを深めるためのファシリテーターの手引き」を使用して理解を深めた。 ・ファシリテーター等への事例概要説明 ・講師への事例概要の説明

周知（多様な領域で働く保健師へ周知するために工夫したこと）

県協会	内容
千葉県	<ul style="list-style-type: none"> ・県看護協会会員施設へ案内書の郵送 ・千葉県健康づくり支援課から保健所及び市町村へのメールによる周知依頼 ・千葉県産業保健看護研究会代表への周知依頼 ・独立行政法人労働者安全機構 千葉県産業保健総合支援センターへの周知依頼及びホームページへの掲載依頼

【千葉県】保健指導ミーティングの実施

プログラム構成

時間	プログラム	関連する目標
10:00	開会	
10:00～10:15	報告 保健師職能委員会の活動について 保健師職能委員長 川名 千春 氏	③
10:15～11:15	講演 「実践力アップ事例検討会」 ～アセスメントの深め方～ 講師：日本看護協会健康政策部 村中 峯子氏	①
11:15～12:15	演習1（2グループに分かれて事例検討） 「保健指導ミーティングをやってみよう」 発表者①：職能委員 河野 好美 発表者②：職能委員 山本 裕香 ファシリテーター①：職能委員 林 敦子 氏 ファシリテーター②：職能委員 雨宮 有子 氏	①, ②
12:15～13:00	休憩	
13:00～13:30	演習2（午前に引き続き事例検討を継続）	①, ②
13:30～14:30	ディスカッション 事例検討内容の発表 講演 「気づきを深めるためのアセスメントのポイント」 講師：日本看護協会健康政策部 村中 峯子 氏	②
14:30～15:00	情報共有 「特定保健指導を実際に行っている状況」 佐倉市及び産業保健から委託を受けている医療機関の状況報告	② ③
15:00～15:05	アンケート記入	
15:05	閉会	

実践事例発表

実践事例発表の概要
(1)事例発表者の所属領域：行政
(2)事例発表者の保健師経験年数：約 26 年
(3)発表タイトル：高齢女性の結核治療支援

実践事例発表の概要
(1)事例発表者の所属領域：行政
(2)事例発表者の保健師経験年数：約 30 年
(3)発表タイトル：引きこもり男性の梅毒治療支援

グループ討議

構成	8人 × 1グループ
討議のテーマ	高齢女性の治療へのモチベーション維持のポイントはどこになるのか
討議で工夫した点	<ul style="list-style-type: none"> 保健師経験年数、所属が多様になるようメンバー配置（グルーピング）した。 「実践力 UP 事例検討会」の STEP に沿ってすすめることで、振り返る視点を意識し、思考が深まることを意図した。 事例提供者が責められたり、嫌な気持ちになったりしないように、必要時、ファシリテーターから声をかけながら進行した 全員が発言できるようにすすめた。

構成	8人 × 1グループ
討議のテーマ	引きこもり男性の梅毒治療支援のポイントはどこか
討議で工夫した点	<ul style="list-style-type: none"> 通常の保健師活動では遭遇する機会の少ない事例のため、経過のプロセスをわかりやすくするため、時系列で整理した。 全員の発言を促した。

【千葉県】保健指導ミーティングの評価（考察）

【実施評価】(4.非常にそう思う 3.ややそう思う 2.あまりそう思わない 1.全くそう思わない)

評価項目	千葉県
①新任の保健師が自らの実践事例を発表することができたか。	1
②様々な領域から新任期の保健師を集められたか	2
③数多くの保健師の参加が得られたか	2
④目標が達成できるように、実践事例発表を行えたか	3
⑤目標が達成できるように、工夫してグループ討議を行えたか	3
⑥グループ討議では、参加者一人ひとりが発言できたか	4
⑦ファシリテーターは、目標が達成できるようにグループ討議を進行できたか	3
⑧プログラム内容は参加者に適したものであったか（参加者の反応等からの評価）	3
⑨プログラム運営に必要な人員・人材を確保できたか	3

【結果評価】(4.非常にそう思う 3.ややそう思う 2.あまりそう思わない 1.全くそう思わない)

評価項目	千葉県
①新任の保健師が自身の実践を振り返ることができたか	2
②新任の保健師が自身の強化すべきスキルに気付くことができたか	3
③参加者同士が、業務に関連する情報交換ができるような仲間づくりができたか	3
④参加者同士が、業務に関連する連携ができるような見通しがたったか	3
⑤参加者にとって、自身の考え方や行動の問題点を意識する機会となったか	3
⑥参加者にとって、保健指導のスキルアップの動機付けのきっかけになったか	3
⑦指導保健師（プリセプター）にとって、新任保健師への関わり方を振り返るきっかけになったか	3
⑧参加者の満足を得ることができたか	3
⑨県協会と関係機関等が、連携して保健師の人材育成に取り組める関係性を構築できたか。	2

【企画評価】(4.非常にそう思う 3.ややそう思う 2.あまりそう思わない 1.全くそう思わない)

評価項目	千葉県
①新任の保健師を主な対象とした事業として適切な企画内容だったか	2
②保健指導ミーティングの開催時期・開催場所・実施時間は適切だったか	2
③多様な領域の保健師の参加が得られるよう、周知できたか	3
④多様な領域の保健師の参加を得るために適切な企画内容だったか	3
⑤事業の目的・目標の設定は適切だったか	3
⑥目的・目標について関係者間で事前共有できていたか	3
⑦事業の目的・目標に対し、プログラムの構成・内容は適切だったか	3
⑧企画段階で、必要な人材の参加・協力を得られたか	2
⑨関係機関等と協働・連携するための働きかけはできたか	3

千葉県

【実施評価】

・ 県主催の新人保健師研修会で、保健指導ミーティングの案内チラシを配布したが、そこからは参加にはつながらなかった。新人が看護協会の主催研修に参加することに抵抗感があるようで、本県の保健師の看護協会入会率の低さとも関係すると考えられた。プログラムとしては、講師の解説も明解で、保健師職能委員が最大限役割を担ったので、円滑な運営ができた。

【結果評価】

・ 新任期の保健師は少なかったが、参加していた新任保健師からは発言もあり、受講後のアンケートにおいても満足感が高かった。看護協会が保健師の人材育成に取り組んでいることを示す1つとして、今回保健指導ミーティングに取り組んだが、単発ではその役割が示せたとは言えない。今回参加した保健師がこの体験を活かして各所属で波及させることを期待したい。

【企画評価】

・ 一般参加者に事例提供を募ったが、事例提供がなく、職能委員がその役割も担うことになった。保健指導ミーティングの実施について、保健師職能委員の中で合意に時間がかかり、これらは、保健指導ミーティングが本県では浸透していないことを示していると考えられる。

【千葉県】まとめ

千葉県

市町村によっては、公的な文化の日関連行事があつて参加できないなどもあり、参加者は少なかったが、充実した内容で、新任期の研修の中で、取入れるべきと思う。

富 山 県

特徴 様々な領域の保健師が集まり、多様な角度で事例検討を深めた。これまでの継続の中、保健指導ミーティングが保健指導に寄与している。

【富山県】保健指導ミーティングの企画

目的

- ① 新任期及びその指導保健師の保健指導のスキルアップに向けた動機づけを行い、その手法について学ぶ。
- ② 管理期の保健師が、実践力向上のための現任教育の手法について理解し、各職場で実践できるよう意識を高める。

目標

- ① アセスメント能力の向上に資する手法の一つとして、事例検討会の必要性を理解する。
- ② 日本看護協会で策定された「実践力 UP 事例検討会」を理解し、各職場で実践・普及できるようにする。

保健指導ミーティングのための事前打合せ

県協会	回数	参加者	内容
富山県	2回	職能委員ファシリテーター、講師、実践事例発表者、その他（板書係）	<ul style="list-style-type: none"> ・事例提出者、ファシリテーターの選出 ・周知方法の検討、役割分担 ・当日の役割分担、ファシリテーターの役割確認、板書係担当者への依頼 ・当日の流れ、資料確認

周知（多様な領域で働く保健師へ周知するために工夫したこと）

県協会	内容
富山県	<ul style="list-style-type: none"> ・県看護協会会員名簿に基づく周知 ・県看護協会会報誌・ホームページ等による周知 ・市町村、県保健師の協議会等を通じた広い呼びかけ（文書、メール等） ・福祉、産業、医療、教育等の領域で働く保健師への呼びかけ ・研修等の機会に周知

【富山県】保健指導ミーティングの実施

プログラム構成

時間	プログラム	関連する目標
9:30	開会あいさつ 富山県看護協会 保健師職能理事 吉田 智子 氏	
9:30~10:30	講義「実践力アップのための事例検討会の必要性とその方法」DVD 視聴 高岡厚生センター 氷見支所 地域健康課長 谷口 理絵 氏	① ②
10:30~11:30	グループ討議（事例発表、演習） 保健師職能委員	① ②
11:30~11:40	発表	① ②
11:40~12:00	講評・まとめ・アンケート記入	① ②
12:00	閉会	

実践事例発表

実践事例発表の概要
(1)事例発表者の所属領域：行政 (2)事例発表者の保健師経験年数：1年目5人 (3)発表タイトル：別添のとおり 5事例

グループ討議

構成	7~8人 × 5グループ
討議のテーマ	事例検討 アセスメントから実施計画まで
討議で工夫した点	<ul style="list-style-type: none"> ・ファシリテーターは、討議時間を十分に取り、全員が発言できるよう配慮した。 ・参加者は行政や医療機関が中心だったが、様々なメンバーと話ができるようグループ分けの際は、年齢構成や所属に留意した。 ・事例提供者は新任者のため、所属のプリセプターにも参加いただき、今後の各職場内でのフォローに繋がるように配慮した。

【富山県】保健指導ミーティングの評価（考察）

【実施評価】(4. 非常にそう思う 3. ややそう思う 2. あまりそう思わない 1. 全くそう思わない)

評価項目	富山県
①新任の保健師が自らの実践事例を発表することができたか。	4
②様々な領域から新任期の保健師を集められたか	3
③数多くの保健師の参加が得られたか	4
④目標が達成できるように、実践事例発表を行えたか	4
⑤目標が達成できるように、工夫してグループ討議を行えたか	4
⑥グループ討議では、参加者一人ひとりが発言できたか	4
⑦ファシリテーターは、目標が達成できるようにグループ討議を進行できたか	4
⑧プログラム内容は参加者に適したものだっか（参加者の反応等からの評価）	4
⑨プログラム運営に必要な人員・人材を確保できたか	4

【結果評価】(4. 非常にそう思う 3. ややそう思う 2. あまりそう思わない 1. 全くそう思わない)

評価項目	富山県
①新任の保健師が自身の実践を振り返ることができたか	4
②新任の保健師が自身の強化すべきスキルに気付くことができたか	4
③参加者同士が、業務に関連する情報交換ができるような仲間づくりができたか	3
④参加者同士が、業務に関連する連携ができるような見通しがたったか	4
⑤参加者にとって、自身の考え方や行動の問題点を意識する機会となったか	4
⑥参加者にとって、保健指導のスキルアップの動機付けのきっかけになったか	4
⑦指導保健師（プリセプター）にとって、新任保健師への関わり方を振り返るきっかけになったか	4
⑧参加者の満足を得ることができたか	4
⑨県協会と関係機関等が、連携して保健師の人材育成に取り組める関係性を構築できたか。	4

【企画評価】(4. 非常にそう思う 3. ややそう思う 2. あまりそう思わない 1. 全くそう思わない)

評価項目	富山県
①新任の保健師を主な対象とした事業として適切な企画内容だったか	4
②保健指導ミーティングの開催時期・開催場所・実施時間は適切だったか	4
③多様な領域の保健師の参加が得られるよう、周知できたか	3
④多様な領域の保健師の参加を得るために適切な企画内容だったか	3
⑤事業の目的・目標の設定は適切だったか	4
⑥目的・目標について関係者間で事前共有できていたか	4
⑦事業の目的・目標に対し、プログラムの構成・内容は適切だったか	4
⑧企画段階で、必要な人材の参加・協力を得られたか	4
⑨関係機関等と協働・連携するための働きかけはできたか	4

富山県

【実施評価】

- ・ 新任保健師とプリセプター保健師のペア出席が多く、今後の各職場でのスキル向上が期待できる。
- ・ 教育機関や保健・医療・福祉部門など多岐に亘る所属から参加があったため、多様な視点で検討することができた。
- ・ アンケート結果より、プログラムは適切な内容だったと考えられる。

【結果評価】

- ・ 事例発表者は、多様な意見を聞くことができ大変参考になったとの意見が多かった。
- ・ 新任者でも自由に意見を述べ合う様子がみられ、開放的でなごやかな雰囲気だった。
- ・ アンケートでは、「自分の保健指導の課題に気付くことができた」「今日のスキルアップへの動機付けができた」と答える者が多かった。
- ・ 職場でも事例検討会を行っているが、ホワイトボードの活用や、事実と想像に分けてアセスメントにつなげるなど、今回の学びを活かしていきたいとの発言があり、有効な機会であったと思われる。

【企画評価】

- ・ 事業の実施にあたり、事前に関係者と目的や方法等について再三協議を行ったことで、当日はスムーズな運営ができた。
- ・ 早期から計画を立て、関係者への周知も行ったのでほぼ予定通りの参加者があった。しかし、産業領域からの参加は少なかった。
- ・ 事例提供者やファシリテーター、板書係等、多くの協力が必要であったが、趣旨に理解・賛同いただき、各所属から快く職員を派遣いただくことができた。

【富山県】まとめ

富山県

保健指導ミーティングの継続により県内各職場で、実践力 UP 事例検討会が定着しつつある。しかし、依然として実施されていない職場もあり、理解度には差が見られた。

グループによっては、経験年数の浅い保健師が発言しにくい場面もあったようで、次回は工夫が必要である。

参加者からは「個別的ケアのアセスメント能力の向上につながり、保健指導のスキルアップにつながった」との声がきかれ、保健指導ミーティングは、保健師の力量形成に大きく寄与しているものとする。新任期の保健師だけでなく、指導者の力量形成にもつながっている。継続を望む声が多く、今後も多領域からの参加に向けて工夫したい。

愛 知 県

特徴 県内の2箇所で開催したため多くの保健師が参加できた。事例検討の前後に講師より事例検討の意義や効果について説明し、アセスメントや事例検討の意義の理解を深めることが出来た。

【愛知県】保健指導ミーティングの企画

目的

- ① 新任保健師及び指導保健師の保健指導のスキルアップの動機づけとなり、新任保健師の自立を促す。
- ② 行政、産業、医療、福祉及び保育機関に所属する保健師のネットワーク形成を図る。

目標

- ① 新任保健師は、個別の保健指導が確実にできることが地域課題の表出になることを理解できる。
- ② 指導保健師は、事例検討会の方法を理解し新任保健師の指導に活かすことができる。
- ③ 参加者は、領域を超えた保健師間のネットワークを図ることができる。

保健指導ミーティングのための事前打合せ

県協会	回数	参加者	内容
愛知県	3回	職能委員、ファシリテーター、講師、実践事例発表者、看護協会理事、コーディネーター（職能委員兼任）	<ul style="list-style-type: none"> ・事例検討会の方法 ・事前準備 ・コーディネーター、ファシリテーター、板書係等の役割 ・研修会の目的、プログラム、参加者状況等について ・事例発表者の事例検討へのねらい ・研修会の目的、プログラム、参加者状況等について

周知（多様な領域で働く保健師へ周知するために工夫したこと）

県協会	内容
愛知県	<ul style="list-style-type: none"> ・県看護協会会員への定期発送便にチラシを封入して周知 ・県看護協会未加入自治体へ職能委員長等により訪問にて周知 ・昨年度に訪問した県看護協会未加入自治体へ文書にて周知 ・行政機関（愛知県、名古屋市）へ文書にて周知依頼 ・保健師関係団体（全国保健師長会愛知県支部、名古屋支部、愛知県保健師会及び愛知県市町村保健師協議会）へ文書にて周知依頼 ・看護系大学の保健師及び産業保健師へメールにて周知

【愛知県】保健指導ミーティングの実施

プログラム構成

時間	プログラム (1回目)	関連する目標
13:45	開会	
13:50~14:20	講義 「アセスメントを深めるためのファシリテーターの手引き」に基づいた事例検討のノウハウ 日本看護協会保健師職能委員会副委員長 榑原るり子	①、②
14:20~14:40	実践事例発表 ① 「特定妊婦への切れ目ない支援」 発表者：保健師 軸屋 絵里子 氏 ② 「地域における支援制度の紹介」 発表者：名古屋市港区保健福祉センター 主査 江崎 道代 氏	①、②
14:40~14:50	休憩	
14:50~16:00	グループ討議	①、②、③
16:00~16:15	グループワーク発表	①、②、③
16:15~16:45	グループワークを受けての助言	①、②
16:45	閉会	

時間	プログラム (2回目)	関連する目標
13:30	開会	
13:35~14:05	講義 「アセスメントを深めるためのファシリテーターの手引き」に基づいた事例検討のノウハウ 日本看護協会保健師職能委員会副委員長 榑原るり子	①、②
14:05~14:15	実践事例発表 ① 「特定保健指導対象者の行動変容を促す支援」 発表者：保健師 高木 綾乃 氏 ② 地域の取り組み報告「いきいき健康マップ」 発表者：豊橋市保健所 主査 原田 紀子 氏	①、②
14:15~14:25	休憩	
14:25~15:45	グループ討議	①、②、③
15:45~16:15	グループワーク発表	①、②、③
16:15~16:45	グループワークを受けての助言	①、②
16:45	閉会	

実践事例発表

実践事例発表の概要（1回目）
(1)事例発表者の所属領域：行政 (2)事例発表者の保健師経験年数：7年 (3)発表タイトル：「特定妊婦への切れ目ない支援」
実践事例発表の概要（2回目）
(1)事例発表者の所属領域：行政 (2)事例発表者の保健師経験年数：8年 (3)発表タイトル：「特定保健指導対象者の行動変容を促す支援」

グループ討議

1回目

構成	21人×2グループ
討議のテーマ	<p>児の健全な子育てが行えない養育力の低い父母についての検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な課題を抱えるケースに対してどのように支援していけばよいのか ・母の健康管理についてどのように進めていけばよいのか
討議で工夫した点	<ul style="list-style-type: none"> ・事例の検討だけでなく、事例検討全体を通した各ステップのポイントを学ぶことを目的に、時間を区切って全ステップに進めるようタイムキーパーを講師が行い、必要に応じて助言を加えた。アセスメントの時間を十分に取れる時間配分を行った。 ・1グループの人数は約20人と望ましい人数より多いが、より多くの参加者の意見が聞けるよう設定した。 ・グループワーク終了後、新任保健師と事例提供者から、参加しての思いを発表し、全体の振り返りを行った。

2回目

構成	19～20人×3グループ
討議のテーマ	<p>やる気はあるが行動変容に結びつかないケースへの支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・検査結果の改善及び透析移行を防ぐための保健指導をどのようにしていくとよいのか
討議で工夫した点	<ul style="list-style-type: none"> ・1回目と同様、事例の検討及び事例検討の各ステップのポイントを学ぶことを目的に、時間を区切って全ステップに進めるようタイムキーパーを講師が行い、必要に応じて助言を加えた。アセスメントの時間を十分に取れる時間配分を行った。 ・経験年数が長い保健師が偏らないようにグループ分けに留意した。 ・グループワーク終了後、新任保健師、事例提供者及び板書係から発表を行い、全体の振り返りを行った。 ・1回目に比べ全体の振り返りの時間に余裕があったため、新任保健師の意見をより多く聞けるよう留意した。

【愛知県】保健指導ミーティングの評価（考察）

【実施評価】(4. 非常にそう思う 3. ややそう思う 2. あまりそう思わない 1. 全くそう思わない)

評価項目	愛知県
①新任の保健師が自らの実践事例を発表することができたか。	3
②様々な領域から新任期の保健師を集められたか	3
③数多くの保健師の参加が得られたか	4
④目標が達成できるように、実践事例発表を行えたか	3
⑤目標が達成できるように、工夫してグループ討議を行えたか	4
⑥グループ討議では、参加者一人ひとりが発言できたか	3
⑦ファシリテーターは、目標が達成できるようにグループ討議を進行できたか	4
⑧プログラム内容は参加者に適したものだっか（参加者の反応等からの評価）	3
⑨プログラム運営に必要な人員・人材を確保できたか	3

【結果評価】(4. 非常にそう思う 3. ややそう思う 2. あまりそう思わない 1. 全くそう思わない)

評価項目	愛知県
①新任の保健師が自身の実践を振り返ることができたか	3
②新任の保健師が自身の強化すべきスキルに気付くことができたか	4
③参加者同士が、業務に関連する情報交換ができるような仲間づくりができたか	2
④参加者同士が、業務に関連する連携ができるような見通しがたったか	2
⑤参加者にとって、自身の考え方や行動の問題点を意識する機会となったか	3
⑥参加者にとって、保健指導のスキルアップの動機付けのきっかけになったか	4
⑦指導保健師（プリセプター）にとって、新任保健師への関わり方を振り返るきっかけになったか	3
⑧参加者の満足を得ることができたか	4
⑨県協会と関係機関等が、連携して保健師の人材育成に取り組める関係性を構築できたか。	3

【企画評価】(4. 非常にそう思う 3. ややそう思う 2. あまりそう思わない 1. 全くそう思わない)

評価項目	愛知県
①新任の保健師を主な対象とした事業として適切な企画内容だったか	4
②保健指導ミーティングの開催時期・開催場所・実施時間は適切だったか	3
③多様な領域の保健師の参加が得られるよう、周知できたか	3
④多様な領域の保健師の参加を得るために適切な企画内容だったか	3
⑤事業の目的・目標の設定は適切だったか	4
⑥目的・目標について関係者間で事前共有できていたか	4
⑦事業の目的・目標に対し、プログラムの構成・内容は適切だったか	3
⑧企画段階で、必要な人材の参加・協力を得られたか	4
⑨関係機関等と協働・連携するための働きかけはできたか	3

愛知県

【実施評価】

- ・アセスメントの時間を確保し、助言を加えながら進めたことで、家族全体の健康課題、個別支援における地域とのつながりについて考える視点にも結び付いた。
- ・グループの人数が多いこともあり、一人ひとりの発言回数は少ないが、初めは戸惑いも感じられた参加者も発言でき、全員が発言し進めることができた。今後、各所属での事例検討会に取り組み易くなった。
- ・板書を効率よく進めるために予め本人の状況を書く等工夫したことで、板書係の負担を減らすとともに討議により多くの時間をかけることが出来た。
- ・運営においては職能委員以外の会員等と連携、協力し合い、円滑に実施することができた。

【結果評価】

- ・意見を出し合いながら板書を加え検討する方法により、意見の可視化や整理ができることを経験し、アセスメントの重要性についての理解し、スキルアップに向けて意欲向上につながった。
- ・参加者同士の交流の時間が十分に確保できなかったが、さまざまな所属からの参加が得られ、多くの意見を聞くことでアセスメントの視点を広げることができた。
- ・新任期の保健師の割合が高かったが、新任期・中堅期・ベテラン期の保健師の割合のバランスがとれていると様々な視点から意見交換ができ、さらに事例検討が深められると感じた。

【企画評価】

- ・事例検討の前後に講師から、事例検討の意義や効果について説明をすることで、目的が明確になり、事例検討の重要性、アセスメントの重要性について理解が深まった。
- ・参加領域に偏りがあり、開催日程、テーマ、周知方法などについて検討が必要。
- ・新任期を指導する立場である中堅期やベテラン期の保健師の参加に向け周知方法等の工夫が必要。

【愛知県】 まとめ

- ・事例検討からアセスメントの重要性や、支援の広がりや自分が支援者の立場として考える機会となり、新任保健師にとってスキルアップの動機づけとなった。
- ・参加者の多くを新任保健師が占めており、事例検討会について学ぶ機会に対するニーズの高さが伺えた。
- ・グループにより進行に若干格差がみられ時間調整を要する場面もあったが、新任保健師が多い中、ファシリテーターがリードしながら事例提供者や板書係と協力し合いながら意見交換を深めることができ、参加者の満足度は高かった。
- ・午前中に事例提供者を交えて打ち合わせ会を行うことで、事例提供のねらいや目指す方向性を運営側が共有化することができ効率的に事例検討を行うことができた。
- ・様々な領域で働く保健師が交流しネットワークを築くには、参加者の領域に限られていた。行政以外で働く保健師への周知方法が今後の課題である。

大 阪 府

特徴 地域における保健師の原点を学び、地域への理解を深めたあと事例検討会を行った。多職種で支援する必要のある個別事例を多様な領域の保健師で検討することで、アセスメント能力を向上させ、個人の力量形成を図った。

【大阪府】保健指導ミーティングの企画

目的

- ① 新任期及び指導保健師の保健指導のスキルアップの動機づけ
- ② 新任保健師の現任教育の手法の普及・自立への支援
- ③ 行政・地域包括支援センター、産業、健診・医療機関に属する保健師のネットワーク

目標

- ① 新任期及び指導保健師の保健指導のスキルアップの動機づけとなる。
- ② 実践事例検討会の手法を活かして現任教育ができる機関が増えるようになる。
- ③ 領域を超えた新任保健師及び指導保健師のネットワークが図られる。

保健指導ミーティングのための事前打合せ

県協会	回数	参加者	内容
大阪府	4回	職能委員、講師	<ul style="list-style-type: none"> ・講師の選定 ・検討事例の確認 ・周知チラシの作成について ・講師や事例提供者への連絡の進捗状況を確認 ・スタッフ役割分担の確認、当日進め方の確認 ・チラシの最終確認 ・PR方法について ・講師と最終確認 ・スタッフ役割分担の確認、当日の進め方の確認 ・事例検討会のグループ分の確認 ・実践力アップの事例検討会のデモンストレーションを実施 ・事例検討会のグループ分、配布資料、パワーポイントの確認 ・実践力アップの事例検討会のデモンストレーションを実施

周知（多様な領域で働く保健師へ周知するために工夫したこと）

大阪府	<ul style="list-style-type: none"> ・府看護協会会員（保健師）が所属する施設（地域包括支援センター、産業、健診・医療機関、大学、行政機関等）代表者及び個人会員に案内通知を発送 ・府看護協会理事会において開催案内の周知 ・職能委員を通じて府看護協会会員にPR（国保連合会、府保健師長連絡会、府看護協会ホームページ、府看護協会常任理事会、大阪市係長会など） ・府看護協会非会員施設に案内通知を発送
-----	---

【大阪府】保健指導ミーティングの実施

プログラム構成

時間	プログラム	関連する目標
10:00	開会	
10:05～11:45	講演：保健師の原点から学ぶ、今できる保健師の活動 ～個別事例から地域の支援～ 講師：大阪府立大学大学院 看護学研究科 教授 上野 昌江 氏	①
11:45～12:00	事例検討会について説明	① ②
12:00～13:00	休憩	
13:00～13:30	事例検討会デモンストレーション	① ②
13:30～14:40	事例検討会	① ② ③
14:40～15:05	グループワーク「事例検討の進め方や実施しての感想」	① ② ③
15:05～15:30	各グループの発表	① ②
15:30～15:50	講師による総評	① ②
15:50～16:00	看護協会の活動紹介と入会案内など 職能委員長	
16:00	閉会・アンケート記入	

実践事例発表

実践事例発表の概要1
(1)事例発表者の所属領域：行政 (2)事例発表者の保健師経験年数：10年目 (3)発表タイトル：発達障害のある児を複数抱え、母の養育能力の低さからネグレクト状態になっている事例への支援
実践事例発表の概要2
(1)事例発表者の所属領域：行政 (2)事例発表者の保健師経験年数：1年目 (3)発表タイトル：両親の生活や精神的な不安定さがあり、育児に支障をきたす恐れのある事例への支援

実践事例発表の概要 3
(1)事例発表者の所属領域：行政 (2)事例発表者の保健師経験年数：1年目 (3)発表タイトル：無戸籍、医療保険未加入、住所不定の日雇い労働者で生活基盤の弱い肺結核患者への支援
実践事例発表の概要 4
(1)事例発表者の所属領域：行政 (2)事例発表者の保健師経験年数：5年目 (3)発表タイトル：医療的ケアを必要とする要支援児童とその家族への支援
実践事例発表の概要 5
(1)事例発表者の所属領域：医療 (2)事例発表者の保健師経験年数：26年目 (3)発表タイトル：インシュリンを使わないといけない認知症高齢夫婦への退院支援

グループ討議

構成	13人 × 5グループ
討議の テーマ	事例検討 ①質疑応答による情報の整理②アセスメント③支援の方向性と役割の確認 ④振り返り 事例検討後、グループワーク テーマ「事例検討会の進め方や実施してみたの感想」
討議で 工夫した点	<ul style="list-style-type: none"> ・ グラドルールを提示し実施。ファシリテーターは以下のことについて特に配慮した。 ① だれも責めない（特に事例提供者を責めない） ② むやみに謝らない ③ みんなで考える ④ 意見を否定しない ⑤ ファシリテーターの指名には答える（パスという答えもあり） ・ グループのメンバーを新任期、プリセプターの年代、管理期の年代にわけて構成し、色々な年代の意見が聞けるようにした。 ・ グループワークについては、事例の支援計画ではなく事例検討会についての意見交換を実施。 ・ 意見を集約しやすいように職能委員がファシリテーターを務めた。 <p>*グループワークの後、各グループから以下の発表をすることで全体での事例やグループワークについての共有が図れた。</p> <ul style="list-style-type: none"> (ア)事例の概要支援計画（STEP7の振り返り） (イ)事例検討会の進め方や実施してみたの感想

【大阪府】保健指導ミーティングの評価（考察）

【実施評価】(4.非常にそう思う 3.ややそう思う 2.あまりそう思わない 1.全くそう思わない)

評価項目	大阪府
①新任の保健師が自らの実践事例を発表することができたか。	3
②様々な領域から新任期の保健師を集められたか	4
③数多くの保健師の参加が得られたか	4
④目標が達成できるように、実践事例発表を行えたか	4
⑤目標が達成できるように、工夫してグループ討議を行えたか	4
⑥グループ討議では、参加者一人ひとりが発言できたか	4
⑦ファシリテーターは、目標が達成できるようにグループ討議を進行できたか	4
⑧プログラム内容は参加者に適したものであったか（参加者の反応等からの評価）	4
⑨プログラム運営に必要な人員・人材を確保できたか	4

【結果評価】(4.非常にそう思う 3.ややそう思う 2.あまりそう思わない 1.全くそう思わない)

評価項目	大阪府
①新任の保健師が自身の実践を振り返ることができたか	3
②新任の保健師が自身の強化すべきスキルに気付くことができたか	3
③参加者同士が、業務に関連する情報交換ができるような仲間づくりができたか	3
④参加者同士が、業務に関連する連携ができるような見通しがたったか	3
⑤参加者にとって、自身の考え方や行動の問題点を意識する機会となったか	4
⑥参加者にとって、保健指導のスキルアップの動機付けのきっかけになったか	4
⑦指導保健師（プリセプター）にとって、新任保健師への関わり方を振り返るきっかけになったか	3
⑧参加者の満足を得ることができたか	4
⑨県協会と関係機関等が、連携して保健師の人材育成に取り組める関係性を構築できたか。	3

【企画評価】(4.非常にそう思う 3.ややそう思う 2.あまりそう思わない 1.全くそう思わない)

評価項目	大阪府
①新任の保健師を主な対象とした事業として適切な企画内容だったか	4
②保健指導ミーティングの開催時期・開催場所・実施時間は適切だったか	4
③多様な領域の保健師の参加が得られるよう、周知できたか	4
④多様な領域の保健師の参加を得るために適切な企画内容だったか	4
⑤事業の目的・目標の設定は適切だったか	4
⑥目的・目標について関係者間で事前共有できていたか	4
⑦事業の目的・目標に対し、プログラムの構成・内容は適切だったか	4
⑧企画段階で、必要な人材の参加・協力を得られたか	4
⑨関係機関等と協働・連携するための働きかけはできたか	4

大阪府

【実施評価】

- ・事例は新任保健師に依頼したが、今年度は行政以外で新たに病院から事例提供があり、母子、難病、生活習慣病、感染症と幅広く事例検討ができた。
- ・保健師は府、政令指定都市、中核市、市町村とそれぞれの行政領域の参加に加えて医療機関、産業領域など様々な領域から保健師を集めることができた。
- ・グループ討議では、ファシリテーターを職能委員が行い、参加者全員が発言することができた。それぞれの事例について各グループで発表してもらい、事例を共有し、より学びを深めた。グループ発表では時間内にプレゼンテーションする能力も合わせて学べた。
- ・現在実施していない職場でも、この事例検討会を実施したいと回答している。
- ・運営は、事務局の協力及び職能委員の役割分担により必要な人材は確保できたと考える。
- ・また、時間内に終了することができ、グループ別討議でも各グループ活発に意見交換できター。

【結果評価】

- ・当日アンケートについては、参加者 69 名に配布し 60 名回収した（回収率 87.0%）
- ・研修の成果としては、アンケート結果から「強化すべき自身のスキルを明確にすることができた」が 90%、「自身の保健指導の課題に気づいた」が 96.7%、「今後のスキルアップの動機づけが出来た」が 91.7%と、どの項目においても非常に評価が高く、学習効果が得られたといえる。
- ・参加者同士の交流については、アンケート結果から「交流が出来た」が 88.3%であったが、「今後もやりとりできる関係づくりができたか」については 61.7%と他の項目と比べて低かった。限られた時間であり、また、事例検討中心であったためと考えられるが、「グループにおいて積極的に発言できたか」については 83.3%が出来たと答えており、討議は概ね活発に行えター。
- ・参加者の満足については、アンケート結果より、「役に立つ内容であった」が 100%、「時間配分・開催回数が適切であった」がそれぞれ 100%、88.3%と高い結果が得られた。

【企画評価】

- ・今年度は、69 名の参加を得て大変好評であった。また、参加者のほぼ半数が新任保健師であり、今年度も昨年度と同様に事例提供者を新任期にすることで、事業の主旨に沿った企画内容になったと考える。また、事例を多様に設定した結果、病院等に所属する保健師が昨年度同様 17%を占めた。
- ・アンケート結果やグループ内での発言から、事業目標を達成できる講師及び研修プログラムであった。申込時に事例の希望を選択してもらい及び事前アンケートにより、主体的に事例検討への参加ができるように把握する等満足度を上げる工夫が好評を招いたと思われる。
- ・この手法での事例検討会は府内で浸透してきており、今回初めて参加した新任保健師の感想も好評であり、職場としても新たに取り組むとの意見もグループワークの中からでター。
- ・今後も、企画段階から新任保健師の意見を把握する等一層の充実に向け取り組みたい。

【大阪府】まとめ

- ・参加者は（定員 60 名）63 名の申込者のうち 57 名が参加。（職能委員 12 名を除く）
- ・参加申込時に事例検討会に関するアンケートを実施。その結果は講演に活かされた。
- ・参加者の保健師経験年数は、5 年以下の新任期が 52.2%であった。

- ・参加理由は、アンケート結果から「保健指導のスキルアップをしたいから（22.5%）」が一番多く、次いで「興味あるテーマだから（21.8%）」であった。

テーマを「保健師の原点を学ぶ 今できる保健師活動～個別から地域の支援～」と原点回帰したことや、周知ビラのデザインに工夫を凝らしたことも反応が良かった要因ではないかと思われる。

- ・「実践力UP事例検討会」の経験者は、アンケート結果から 60%であった。昨年度の 50.0%、一昨年の 38.0%より増加しており、大阪府内において本事例検討方法が浸透してきている状況にあると言える。

研修を受けて、今後この事例検討の手法を職場で実施したいと思ったものは、95.8%であった。

この研修会が事例検討会実施のきっかけにつながることを期待している。

- ・研修の成果としては、アンケート結果から、「自身の保健指導の課題に気づくことができた」「自身に必要なことを学ぶことができた」「今後のスキルアップへの動機づけができた」等の項目において高い評価が得られ、満足度も高かった。

また、講師は、公衆衛生看護活動が芽生えた大阪の歴史や先輩諸姉の足跡を丁寧に読み解き、言語化し、新任保健師にもわかりやすく保健師のあるべき姿と保健師活動の具体的実践例を心に染み入る言葉で伝えターだき、「保健師としてのプライドの再構築となるとともに、住民の健康への責任を持ち続けることの重要性に気づいた」「今後の業務をするに当たり、モチベーションの上がる講義だった。保健師の多様性・面白さを感じた」などの感想があった。

⇒以上より、目標の①②は達成されており、今後も継続して実施していく必要性があると言える。

- ・目標③の領域を超えたネットワークの形成については、アンケート結果では、過半数（61.7%）が「今後もやりとりできるような関係づくりができた」と回答した。また今年度は、行政の保健師以外の所属の参加が 17.4%あった。

これは、医療機関からの事例提供や生活習慣病のテーマを加えて産業保健領域が参画しやすいように工夫した成果であると考えている。

参加した医療機関の保健師からは、「保健師だけの事例検討は初めてで、保健師ならではの意見を聞くことができて楽しかった」「保健師の研修会は珍しいのでまた参加したい」という感想があった。

⇒以上より、保健師職能として、保健領域のみならず、福祉、医療、産業、教育等の保健師同士が連携する機会となるように、今後も研修企画や周知方法を工夫して継続していく必要があると考える。

奈良県

特徴 保健師のキャリアラダーの視点から事例検討会の意義を学び、アセスメント能力の向上を図った。

【奈良県】保健指導ミーティングの企画

目的

- ① 新任保健師及び指導保健師（プリセプター）の保健指導のスキルアップの動機づけを図ると共に、新任保健師の現任教育の手法の普及・自立への支援を図る。
- ② 行政や地域包括支援センター、子育て世代包括支援センター等に所属する保健師のネットワークの形成を図る。

目標

【新任保健師】

- ① 新任保健師が早期の段階で自らの実践を事例にし、事例検討を行うことができる。
- ② 自身の今後強化すべきスキルに気づくことができる。
- ③ 保健指導の実践事例の検討を通して、自身の実践を振り返ることができる。
- ④ 個別の保健指導をしっかりとできることが、地域課題への気づきや取り組みにつながることや、その意義を理解できる。

【指導保健師】

- ⑤ 保健指導の実践事例の検討を通して、自身の実践を振り返ることができる。
- ⑥ 自身の今後強化すべきスキルに気づくことができる。
- ⑦ 新任保健師とともに実践事例の検討に加わることを通して、新任保健師に対する今後の指導に生かすことができる。

保健指導ミーティングのための事前打合せ

県協会	回数	参加者	内容
奈良県	3回	職能委員、県職員、県・前職能等協力職員	<ul style="list-style-type: none"> ・保健指導ミーティング開催の目的、目標について話し合う ・職能委員と県との役割分担について ・ファシリテーター研修について ・当日の具体的なスケジュールについての打ち合わせ ・4事例の事前検討（事前演習） ・必要物品、資料、講師への連絡等の確認 ・4事例の事前演習 ・デモンストレーション練習 ・当日スケジュール等の最終確認 ・役割分担、参加者グループ分け

周知（多様な領域で働く保健師へ周知するために工夫したこと）

県協会	内容
奈良県	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県看護協会ホームページでの周知 ・ 県と共催し、各市町村長宛に県から開催通知を发出 ・ 県及び保健所課長会にて周知。保健所から管轄市町村に事前に情報提供

【奈良県】保健指導ミーティングの実施

プログラム構成

時間	プログラム	関連する目標
10:00～10:10	開会 挨拶：奈良県看護協会会長 平 葉子 氏	
10:10～11:40	講演「事例検討会を検討するアセスメントのポイント」 講師：防衛医科大学 医学教育部医学科教授 佐野 信也 氏	①②④⑥
11:40～12:30	事例検討デモンストレーション及び解説 保健師職能委員、県・保健所保健師等 解説：武蔵野大学 看護学部 看護学科教授 中板 育美 氏	①③
12:30～13:30	休憩 (13時～ 事例提供者との打ち合わせ)	
13:30～15:00	グループ討議 コーディネーター：佐野氏・中板氏	①③⑤⑦
15:00～15:30	グループ発表 助言者：佐野氏・中板氏	
15:30～16:00	講評および講演 「キャリアラダーにおける事例検討の重要性」 講師：武蔵野大学 看護学部 看護学科教授 中板 育美 氏	②⑥⑦
16:00	閉会 挨拶：奈良県健康推進課 主幹 和家佐 日登美 氏	

実践事例発表①

実践事例発表の概要

- (1)事例発表者の所属領域：行政
- (2)事例発表者の保健師経験年数：約 1 年
- (3)発表タイトル：母がうつ病でパニック障害あり、母子手帳交付時から継続フォロー中

グループ討議

構成	7人
討議のテーマ	母の病気の再発予防
討議で工夫した点	<ul style="list-style-type: none">・父や祖母とのかかわり等、保健師と一緒に关われるように検討した・その対象者がどのようになりたいかに焦点を当てて考えられるよう促した・参加者に事前に事例提供をしてもらった

実践事例発表②

実践事例発表の概要

- (1)事例発表者の所属領域：行政
- (2)事例発表者の保健師経験年数：約 1 年
- (3)発表タイトル：母がうつ病でパニック障害あり、母子手帳交付時から継続フォロー中

グループ討議

構成	7人
討議のテーマ	安心して育児ができるよう支援する
討議で工夫した点	<ul style="list-style-type: none">・板書がおこないやすいよう、進行速度を調節した。・参加者全員がイメージしやすいよう具体的な説明を行った・参加者に事前に事例提供をしてもらった

実践事例発表③

実践事例発表の概要	
(1)事例発表者の所属領域：行政	
(2)事例発表者の保健師経験年数：約 1 年	
(3)発表タイトル：喫煙歴が長く、血圧が経年的に高い状態が続いている	

グループ討議

構成	7人
討議のテーマ	夫婦ともに元気で長生きできる
討議で工夫した点	<ul style="list-style-type: none">・全員が発言できるよう声掛けを行った・できている点をほめるような支援を検討した・参加者に事前に事例提供をしてもらった

実践事例発表④

実践事例発表の概要	
(1)事例発表者の所属領域：行政	
(2)事例発表者の保健師経験年数：約 1 年	
(3)発表タイトル：喫煙歴が長く、血圧が経年的に高い状態が続いている	

グループ討議

構成	6人
討議のテーマ	生活全体の見直し
討議で工夫した点	<ul style="list-style-type: none">・想像か事実なのかを1つずつ確認しながら討議をすすめた・参加者に事前に事例提供をしてもらった

実践事例発表⑤

実践事例発表の概要	
(1)事例発表者の所属領域：行政	
(2)事例発表者の保健師経験年数：約 3 年	
(3)発表タイトル：8人の子供がおり、ネグレクトの可能性のある家庭	

グループ討議

構成	5人
討議のテーマ	家族全員が安全に暮らせる
討議で工夫した点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 確認すべき情報は何かをきちんと確認した ・ 全員に発言してもらうように声掛けを行った ・ 参加者に事前に事例提供をしてもらった

実践事例発表⑥

実践事例発表の概要	
(1)事例発表者の所属領域：行政	
(2)事例発表者の保健師経験年数：約 1 年	
(3)発表タイトル：頼れる支援者が近くにいない妊婦	

グループ討議

構成	6人
討議のテーマ	まわりのサポートを受けながら安心して出産できる
討議で工夫した点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全員に発言してもらうように声掛けを行った ・ 参加者に事前に事例提供をしてもらった

【奈良県】保健指導ミーティングの評価（考察）

【実施評価】(4.非常にそう思う 3.ややそう思う 2.あまりそう思わない 1.全くそう思わない)

評価項目	奈良県
①新任の保健師が自らの実践事例を発表することができたか。	4
②様々な領域から新任期の保健師を集められたか	2
③数多くの保健師の参加が得られたか	4
④目標が達成できるように、実践事例発表を行えたか	4
⑤目標が達成できるように、工夫してグループ討議を行えたか	4
⑥グループ討議では、参加者一人ひとりが発言できたか	4
⑦ファシリテーターは、目標が達成できるようにグループ討議を進行できたか	4
⑧プログラム内容は参加者に適したものだっか（参加者の反応等からの評価）	3
⑨プログラム運営に必要な人員・人材を確保できたか	4

【結果評価】(4.非常にそう思う 3.ややそう思う 2.あまりそう思わない 1.全くそう思わない)

評価項目	奈良県
①新任の保健師が自身の実践を振り返ることができたか	3
②新任の保健師が自身の強化すべきスキルに気付くことができたか	3
③参加者同士が、業務に関連する情報交換ができるような仲間づくりができたか	2
④参加者同士が、業務に関連する連携ができるような見通しがたったか	3
⑤参加者にとって、自身の考え方や行動の問題点を意識する機会となったか	4
⑥参加者にとって、保健指導のスキルアップの動機付けのきっかけになったか	4
⑦指導保健師（プリセプター）にとって、新任保健師への関わり方を振り返るきっかけになったか	3
⑧参加者の満足を得ることができたか	4
⑨県協会と関係機関等が、連携して保健師の人材育成に取り組める関係性を構築できたか。	4

【企画評価】(4.非常にそう思う 3.ややそう思う 2.あまりそう思わない 1.全くそう思わない)

評価項目	奈良県
①新任の保健師を主な対象とした事業として適切な企画内容だったか	4
②保健指導ミーティングの開催時期・開催場所・実施時間は適切だったか	3
③多様な領域の保健師の参加が得られるよう、周知できたか	2
④多様な領域の保健師の参加を得るために適切な企画内容だったか	2
⑤事業の目的・目標の設定は適切だったか	4
⑥目的・目標について関係者間で事前共有できていたか	4
⑦事業の目的・目標に対し、プログラムの構成・内容は適切だったか	4
⑧企画段階で、必要な人材の参加・協力を得られたか	4
⑨関係機関等と協働・連携するための働きかけはできたか	4

奈良県

【実施評価】

- ・事前打ち合わせを数回行い、事例の選定やデモンストレーション、事例の事前演習も行い、スタッフが共有しながら実施に備えることができた。
- ・参加した行政の新任保健師は、主体的に事例を提出・報告・発表できた。昨年プリセプターの参加が少なかったため、今年度は必ずプリセプターと共の参加を募集案内したところ、ほとんどのところは、新任とプリセプターの参加が得られた。
- ・今後は職場に持ち帰って、実施につなげていきたい。

【結果評価】

- ・事例検討が中心で、情報交換の時間が昨年とはとれなかったため、今年度はプログラムに入れたが、グループワークの時間が長引き情報交換ができなかった。
- ・事例検討をとおして、保健指導の振り返りや自分の行動を意識する機会となった。
- ・県の協会と県の人材育成の担当課が、事前打ち合わせから協同実施し、来年度は、人材育成の事業に移行予定であることも共有できている。

【企画評価】

- ・行政の新任やプリセプターを主な対象で企画したので、今後は保健指導という切り口で、多様な領域の保健師への参加案内や交流のできる企画を決定していきたい。

【奈良県】まとめ

- ・昨年に引き続き2年目の開催。1日で行ったが、内容はとても充実したものになった。その反面、時間の余裕がなく、スケジュール的には厳しいものとなってしまった。
- ・県と共に行い、新任者の参加者と共にプリセプターの参加もみられた。会員への案内の周知はできたが、多様な職域での参加者募集は広域に行うことができなかった。
- ・新任者に事例を提供してもらうことで、自身の関わり等について客観的に見直す良い機会となった。
- ・事例検討を通して、新任のみならず、プリセプターの立場にある者やスタッフもアセスメントの重要性について改めて学ぶことができた。
- ・今回、プリセプターの参加が得られたので、今後人材育成としても、職場に持ち帰り実践につなげてもらいたい。

和歌山県

特徴 保健師は対象者の生涯を見据えて支援を行うことを理解したうえで、日頃の活動で支援することの多い特定保健指導の事例などを中心に検討を行った。なお、実施にあたっては地域の医療機関や大学の協力を得た。

【和歌山県】保健指導ミーティングの企画

目的

新任保健師（以下、新任保健師）及び新任保健師を指導する保健師（以下、指導保健師）を対象に、保健師活動における保健指導のスキルアップを図り、保健指導の質の向上を目指すことを目的に実施する。講演と看護協会の「実践力 UP 事例検討会」の手法を用いて、保健指導の過程を、基本から学習できる様にする。また、参加者ひとり一人が日頃行っている自らの実践を振り返り、今後の活動に意欲が持てるようにする。

さらに、事例検討を OJT として位置づけ定期的に事例検討を行える職場づくりができるようにする。また、和歌山県内に勤務する保健師が一同に会することにより、参加者同士が交流し、保健師間の連携が促進できるようにする。

目標

新任保健師及び指導保健師

- ①保健指導の基本について理解できる。
- ②自らの今後強化すべきスキルに気付くことができる。
- ③自らが取り組むべき保健指導の課題が明確になる。
- ④課題解決に向けての行動目標や行動計画が明確になる。
- ⑤個別の保健指導をしっかりできることが、地域課題の取り組みにつながることや、その意義を理解できる。
- ⑥保健師間の連携が促進される。
- ⑦新任保健師あるいは指導保健師の気持ちが理解できる。
- ⑧職場で事例検討を実施する意義を理解し、今後に繋げることができる。

指導保健師

- ⑨新任保健師に対する今後の指導に活かすことができる

保健指導ミーティングのための事前打合せ

県協会	回数	参加者	内容
和歌山県	2回	職能委員、コーディネーター、県行政関係者	<ul style="list-style-type: none"> ・事業の目的・目標の設定について ・実行委員会の開催日程について ・案内文内容、周知について ・講師、プログラムについて ・事業内容の検討について ・事例検討の実際「実践力UP事例検討の方法を取り入れて」実施 ・留意点、タイムスケジュールについて ・講師、事例提供者について ・当日の役割分担、準備物品について ・アンケート作成

周知（多様な領域で働く保健師へ周知するために工夫したこと）

県協会	内容
和歌山県	<ul style="list-style-type: none"> ・県看護協会職能集会で、本事業を紹介 ・県看護協会会員・非会員を問わず施設代表者に通知 ・職能委員により参加を促進 ・県看護主管課からメールによる通知

【和歌山県】保健指導ミーティングの実施

プログラム構成

時間	プログラム	関連する目標
13:00	開会	
13:00~14:00	講話「高齢者支援にもつながる生活習慣病予防」 講師 紀伊クリニック 内科医 山野 雅弘 氏	①②③⑨
14:00~14:30	講義「事例検討の進め方」 和歌山県立医科大学 名誉教授 山田 和子 氏	①②③⑤⑦⑧ ⑨
14:45~16:00	グループ討議 「実践力をUPする事例検討」 ・コーディネーター 和歌山県立医科大学 名誉教授 山田 和子 氏 ・話題提供 岩出市役所保健師 山口 嘉奈子 氏 田辺保健所保健師 中井 沙紀 氏	②③④⑤⑥⑦ ⑧⑨
16:00~16:30	発表・全体討議・まとめ アンケート記載	②③④⑥⑧⑨
16:30	閉会	

実践事例発表

実践事例発表の概要
(1)事例発表者の所属領域：行政 (2)事例発表者の保健師経験年数：約1年 (3)発表タイトル：山間部に在住のALSにて人工呼吸器を使用している在宅高齢者
実践事例発表の概要
(1)事例発表者の所属領域：行政 (2)事例発表者の保健師経験年数：約1年 (3)発表タイトル：間食がやめられない方への特定保健指導

構成	9～10人 × 2グループ
討議の テーマ	<ul style="list-style-type: none"> 事例検討（実践力 UP 事例検討会）実施 生活習慣病予防の事例 難病の事例 事例検討実施後の振り返り 事例検討を通じての気づき 今後の各職場における事例検討の実施について
討議で 工夫した点	<ul style="list-style-type: none"> 日本看護協会「実践力 UP 事例検討」を用いて実施するにあたり、実行委員が事前に事例検討を行い、内容や時間を調整した。 また、ファシリテーターや板書係は事前学習を行った。 参加者を2グループに編成し、各グループに1事例の提供で検討を行った。事例検討者がグループにいて質問がスムーズにできた。 新任期、中堅期、管理期保健師が同じグループで検討したことにより、事例検討の目的が共通認識できた。 最後に各グループから発表し、参加者全員で共有した。 最後に講師から講評をいただき、理解を深めることができた。

【和歌山県】保健指導ミーティングの評価（考察）

【実施評価】(4.非常にそう思う 3.ややそう思う 2.あまりそう思わない 1.全くそう思わない)

評価項目	和歌山県
①新任の保健師が自らの実践事例を発表することができたか。	3
②様々な領域から新任期の保健師を集められたか	2
③数多くの保健師の参加が得られたか	2
④目標が達成できるように、実践事例発表を行えたか	4
⑤目標が達成できるように、工夫してグループ討議を行えたか	4
⑥グループ討議では、参加者一人ひとりが発言できたか	4
⑦ファシリテーターは、目標が達成できるようにグループ討議を進行できたか	4
⑧プログラム内容は参加者に適したものであったか（参加者の反応等からの評価）	4
⑨プログラム運営に必要な人員・人材を確保できたか	4

【結果評価】(4. 非常にそう思う 3. ややそう思う 2. あまりそう思わない 1. 全くそう思わない)

評価項目	和歌山県
①新任の保健師が自身の実践を振り返ることができたか	4
②新任の保健師が自身の強化すべきスキルに気付くことができたか	4
③参加者同士が、業務に関連する情報交換ができるような仲間づくりができたか	3
④参加者同士が、業務に関連する連携ができるような見通しがたったか	3
⑤参加者にとって、自身の考え方や行動の問題点を意識する機会となったか	4
⑥参加者にとって、保健指導のスキルアップの動機付けのきっかけになったか	4
⑦指導保健師（プリセプター）にとって、新任保健師への関わり方を振り返るきっかけになったか	3
⑧参加者の満足を得ることができたか	4
⑨県協会と関係機関等が、連携して保健師の人材育成に取り組める関係性を構築できたか。	4

【企画評価】(4. 非常にそう思う 3. ややそう思う 2. あまりそう思わない 1. 全くそう思わない)

評価項目	和歌山県
①新任の保健師を主な対象とした事業として適切な企画内容だったか	4
②保健指導ミーティングの開催時期・開催場所・実施時間は適切だったか	4
③多様な領域の保健師の参加が得られるよう、周知できたか	4
④多様な領域の保健師の参加を得るために適切な企画内容だったか	4
⑤事業の目的・目標の設定は適切だったか	4
⑥目的・目標について関係者間で事前共有できていたか	4
⑦事業の目的・目標に対し、プログラムの構成・内容は適切だったか	4
⑧企画段階で、必要な人材の参加・協力を得られたか	4
⑨関係機関等と協働・連携するための働きかけはできたか	4

和歌山県

【実施評価】

- ・早い段階から各施設に広く周知した。昨年に比べ参加者は増加したが、まだまだ十分とは言えない。
- ・保健所や市町村の様々な担当領域の保健師が集い、事例検討の方法について学ぶ機会となった。
- ・コーディネーターが時間的な進行管理を考慮して実施したので、時間内に今後の方向性まで検討することができた。また、ファシリテーターがみんなの意見を引き出したので、円滑に発表することができ、事例の共有ができた。
- ・保健師が身近に関わる事例を中心に事例検討会を実施したので、意見が出やすく、参加者一人ひとりが発言しやすかった。
- ・グループで振り返りを行うことにより、事例検討の意義をより深めることができた。

【結果評価】

- ・事例検討については事例提供者から具体的な実践を聞きながら行うことで、十分な討議ができた。
- ・事例検討を通して、自分が関わった事例であるような疑似体験ができ、今後の事例対応に活かせる

と、参加者からは好評であった。

- ・ 新任期、中堅期、管理期保健師が同じグループであったので、新任保健師は世代による違った視点を学ぶことができた。

- ・ アンケート結果より、「ご自身の保健指導の課題について気づくことができましたか」、「今後のスキルアップへの動機づけができましたか」との質問に対して、「非常にそう思う」、「ややそう思う」と回答したものが合わせて 95%であった。また、事例検討では「事例検討が必要であると思う内容でしたか」という質問に対して、「非常にそう思う」、「ややそう思う」と回答した者が合わせて 95%と、参加者にとって事例検討は有効であると考えられる。

- ・ 県行政機関と内容や周知方法、人材育成に対する協力関係が得られた。

【企画評価】

- ・ 実行委員会のメンバーは、職能委員に行政、教育の各領域のメンバーを加えて、多くの領域から参加できるように配慮した。企画の段階から十分検討し、意思統一を図りながら実施体制を整えたので、当日マンパワーが不足することもなかった。また、事例提供者に対して、今回の保健指導ミーティングの主旨目的や目標を十分に説明することにより、理解が得られ、当日の運営がスムーズに行えた。

- ・ 目的、目標にあった実施内容を企画することができた。

- ・ 最初に「高齢者支援にもつながる生活習慣病予防」の講演会を実施し、長期を見通した生活習慣の積み重ねの大切さを学んだ。

- ・ グループワークでは、新任期、中堅期、管理期保健師が同じグループであり、世代を超えた意見交換ができた。また、各グループから発表し、参加者全員で意見を共有することができた。

- ・ 県行政機関と周知や人材育成に対する協力関係が得られた。

【和歌山県】まとめ

- ・ 事例検討については、「事例検討の必要性を改めて感じた」「事例検討の手法（ルール、タイム管理等）について学ぶことができた」、「事例検討の方法は今後も活用したいツールでした」等の意見があった。

- ・ 新任保健師は世代による違った視点を学ぶことができ、アセスメントの実力 UP の一助となったと考えられる。

鳥 取 県

特徴 近県の大学教授やコーディネーター（前 職能委員長）の協力を得ながら、新任保健師が担当している事例を多領域の保健師で事例を検討した。

【鳥取県】保健指導ミーティングの企画

目的

- ① 新任保健師が事例検討を通して個別指導の基礎的な知識を学び実践の向上を図る。
- ② 指導者であるプリセプターも保健指導のあり方を理解し、新任保健師の支援、指導力のスキルアップを図る。

目標

- ① 新任保健師が事例検討を通して事例の情報の整理とアセスメントができる。
- ② アセスメントに基づき、具体的な支援計画が策定できる。
- ③ 策定した支援策が実践できる。

保健指導ミーティングのための事前打合せ

県協会	回数	参加者	内容
鳥取県	2回	ファシリテーター、実践事例発表者、コーディネーター	<ul style="list-style-type: none"> ・研修会の日程調整、場所予約 ・周知方法について ・事例提供の仕方 ・事例提供者の選定 ・当日の役割分担 ・タイムスケジュールの確認

周知（多様な領域で働く保健師へ周知するために工夫したこと）

県協会	内容
鳥取県	<ul style="list-style-type: none"> ・県看護協会ホームページに掲載 ・鳥取県市町村保健師協議会からの案内 ・職能委員会からの声掛け

【鳥取県】保健指導ミーティングの実施

プログラム構成

時間	プログラム	関連する目標
13:00	開会	
13:00～13:40	ガイダンス 「実践力 UP 事例検討会を体験しよう」 川崎医療福祉大学 教授 富田 早苗 氏	① ～③
13:40～13:50	事例発表 ① 「アルコール依存症であるが通院を中断しているケース」 発表者：中部福祉保健局 福田 祥吾 氏 ② 「肥満、歩行障害のある統合失調症治療中のケース」 発表者：鳥取市中央保健センター 森田 彩香 氏	①
13:55～14:35	グループ討議 事例検討 ・現状の評価 ・確認すべき情報の整理 ・今後危惧されること	①②
14:35～14:50	支援計画 ・今後の方向性と役割確認	②
14:50～15:00	振り返り グループ報告	
15:00～15:20	シェアリング 参加者から一言コメントをもらう	
15:20～15:40	まとめ 閉会 講評	

実践事例発表の概要
<p>(1)事例発表者の所属領域：行政</p> <p>(2)事例発表者の保健師経験年数：約2年</p> <p>(3)発表タイトル：アルコール依存症であるが通院を中断しているケース</p>
実践事例発表の概要
<p>(1)事例発表者の所属領域：行政</p> <p>(2)事例発表者の保健師経験年数：約2年</p> <p>(3)発表タイトル：肥満、歩行障害のある統合失調症治療中のケース</p>

グループ討議

構成	2グループ（11人、13人）
討議のテーマ	事例提供された2事例を2グループで、看護協会の推進する事例検討会のやり方で事例検討をグループで行った。
討議で工夫した点	<ul style="list-style-type: none"> ・最初に看護協会のグラウンドルールを参加者全員に説明し、ホワイトボードにも貼っておいた。 ・1事例につきファシリテーター役と板書係を各1名つけ、事例検討が円滑に進むようにした。 ・全体のファシリテーターを2名フリーで配置し、事例検討を進行するファシリテーターの補助をした。 ・全体のファシリテーターが時間管理を行い、進行が具体的な支援策まで確立するよう配慮した。

【鳥取県】保健指導ミーティングの評価（考察）

【実施評価】(4. 非常にそう思う 3. ややそう思う 2. あまりそう思わない 1. 全くそう思わない)

評価項目	鳥取県
①新任の保健師が自らの実践事例を発表することができたか。	3
②様々な領域から新任期の保健師を集められたか	2
③数多くの保健師の参加が得られたか	3
④目標が達成できるように、実践事例発表を行えたか	3
⑤目標が達成できるように、工夫してグループ討議を行えたか	4
⑥グループ討議では、参加者一人ひとりが発言できたか	4
⑦ファシリテーターは、目標が達成できるようにグループ討議を進行できたか	3
⑧プログラム内容は参加者に適したものだっか（参加者の反応等からの評価）	3
⑨プログラム運営に必要な人員・人材を確保できたか	4

【結果評価】(4. 非常にそう思う 3. ややそう思う 2. あまりそう思わない 1. 全くそう思わない)

評価項目	鳥取県
①新任の保健師が自身の実践を振り返ることができたか	4
②新任の保健師が自身の強化すべきスキルに気付くことができたか	4
③参加者同士が、業務に関連する情報交換ができるような仲間づくりができたか	3
④参加者同士が、業務に関連する連携ができるような見通しがたったか	3
⑤参加者にとって、自身の考え方や行動の問題点を意識する機会となったか	3
⑥参加者にとって、保健指導のスキルアップの動機付けのきっかけになったか	3
⑦指導保健師（プリセプター）にとって、新任保健師への関わり方を振り返るきっかけになったか	3
⑧参加者の満足を得ることができたか	4
⑨県協会と関係機関等が、連携して保健師の人材育成に取り組める関係性を構築できたか。	4

【企画評価】(4. 非常にそう思う 3. ややそう思う 2. あまりそう思わない 1. 全くそう思わない)

評価項目	鳥取県
①新任の保健師を主な対象とした事業として適切な企画内容だったか	4
②保健指導ミーティングの開催時期・開催場所・実施時間は適切だったか	3
③多様な領域の保健師の参加が得られるよう、周知できたか	3
④多様な領域の保健師の参加を得るために適切な企画内容だったか	3
⑤事業の目的・目標の設定は適切だったか	3
⑥目的・目標について関係者間で事前共有できていたか	4
⑦事業の目的・目標に対し、プログラムの構成・内容は適切だったか	3
⑧企画段階で、必要な人材の参加・協力を得られたか	4
⑨関係機関等と協働・連携するための働きかけはできたか	3

鳥取県

【実施評価】

- ・保健指導ミーティングを初めて経験した人や数回経験したことのある人等様々であった。新任保健師が日頃の実践事例を振り返り、情報を整理し、アセスメントの重要性を理解できたと感じる。また、多くの参加者の意見を聞くことで自分一人では思いつかない支援策もたくさん計画できた。
- ・ファシリテーターは重要な役であるが、全体のファシリテーターに補助してもらい、適切に進行できた。
- ・産業保健師等にも案内をしたが、参加者は行政保健師が主となった。

【結果評価】

- ・年齢や経験年数、様々な領域で働く保健師の参加状況であったが、多様な見方、考え方があり、意見交換をする中で、気づかない部分に気づきをもらい、事例検討の重要性が理解できたと思われる。
- ・保健指導ミーティングの事例検討の方法を体験することで、各職場に戻りこの方法で事例検討を行うことができると思われる。

【企画評価】

- ・保健指導ミーティングというものが効果的な事例検討とイメージしてもらえる様、周知を図る必要があった。それができればもっと参加者を募ることができたと思われる。
- ・主に新任保健師を対象とした保健指導ミーティングであったが、対象者を新任期に限定せず、様々な年代から学び合うことができれば良いのではないかと感じた。

【鳥取県】まとめ

グランドルールがあることで、参加しやすく意見を出しやすい事例検討会とすることができる。これを各職場でも活かしていける様、持ち帰り、実践することが大切であろう。

参加者は、ほぼ全員が行政保健師であり、行政以外の保健師を含めた研修とならなかったのが、残念である。

今後は計画にあたって、日程を相談し決定したいと思う。

岡山県

特徴 医療機関と行政の保健師が事例を発表した後、それぞれ事例検討を行った。新任保健師が担当することが少ないような事例でもミーティングで取り上げることにより、地域への理解が深まったり、アセスメント能力の向上となったりして保健指導のスキルアップの動機づけの機会となった。

【岡山県】保健指導ミーティングの企画

目的

- ① 実践事例検討会を通して、新任期及び指導保健師（プリセプター）の保健師スキルの向上を図る。
- ② 参加者間の情報交換と交流を促進し、領域を超えた保健師のネットワークの構築、強化を図る。

目標

- 1) 新任期及び指導保健師の保健指導のスキルアップの動機づけとなる。
 - (1) 新任保健師（事例提供者）
 - ① 実践力 UP 事例検討会の手法等にそって積極的に事例提供できる。
 - ② 事例検討会を通して自身の実践を振り返るとともに、今後強化すべきスキルに気づくことができる。
 - (2) 指導保健師（ファシリテーター・板書係）
 - ③ 事例検討会におけるファシリテーター・板書係の体験を通して、今後の新任保健師の指導に活かすことができる。
- 2) 領域を超えた新任期及び指導保健師間のネットワークが図れる。
 - ④ 一連の過程を通して、保健師の専門性を確認し合える。
 - ⑤ 一連の過程を通して、多領域の保健師と交流し、お互いの業務や役割について理解を深めることができる。

保健指導ミーティングのための事前打合せ

県協会	回数	参加者	内容
岡山県	3回	職能委員、ファシリテーター、ファシリテーター（記録係）、実践事例発表者	<ul style="list-style-type: none"> ・事例選考 ・プログラム・タイムスケジュール等について ・当日の役割分担等 ・事例ごとのファシリテーター・記録係担当と時間配分等について ・事例発表者、ファシリテーター、職能委員で当日進行について確認

周知（多様な領域で働く保健師へ周知するために工夫したこと）

県協会	内容
岡山県	<ul style="list-style-type: none"> ・県看護協会「教育・研修・学会計画」冊子に掲載 ・施設代表者会議・集会で、事例提供及びファシリテーター公募の周知 ・会員名簿（メール）による周知 ・特に、医療機関の保健師への事例提供の促し ・職能委員を通じた関係部署（市町村保健師協議会、保健師長会等含む）への周知

【岡山県】保健指導ミーティングの実施

プログラム構成

時間	プログラム	関連する目標
13:00	開会	
13:00～13:20	保健指導ミーティング ガイダンス 「実践力アップ事例検討会を体験しよう！」 講師： 保健師職能委員会 副委員長 高井 裕子 氏	④
13:20～14:20	実践事例発表①「減量に対する意欲はあるものの生活改善の行動目標を継続することができない特定保健指導を繰り返す心疾患等のリスクが高い事例」 発表者：倉敷中央病院総合保健管理センター 中野 まどか 氏 事例検討	①、②、③
14:20～14:40	振り返り	④、⑤
14:40～14:50	休憩	
14:50～15:50	実践事例発表②「A型事業所を利用している精神疾患を持った特定保健指導対象者の目標設定と行動変容が難しい事例」 発表者： 岡山市保健所健康づくり課 山吹 美紀 氏 事例検討	①、②、③
15:50～16:10	振り返り	④、⑤
16:10～16:30	まとめ	②、④、⑤
16:30	閉会	

実践事例発表の概要	
(1)事例発表者の所属領域：行政	
(2)事例発表者の保健師経験年数：約 12 年	
(3)発表タイトル：「減量に対する意欲はあるものの生活改善の行動目標を継続することができない特定保健指導を繰り返す心疾患等のリスクが高い事例」	
(1)事例発表者の所属領域：行政	
(2)事例発表者の保健師経験年数：約 16 年	
(3)発表タイトル：「A 型事業所を利用している精神疾患を持った特定保健指導対象者の目標設定と行動変容が難しい事例」	

構成	21 人 × 1 グループ × 2 事例
討議のテーマ	効果的な保健指導のあり方について
討議で工夫した点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1 事例のグループ討議が終わった後、参加者席の前列と後列を交替し、参加者全員が活発な討議が行えるように工夫した。 ・ ファシリテーター（板書係）を主担当と副担当の 2 人体制とし、事例ごとに交代して補佐した。

【岡山県】保健指導ミーティングの評価（考察）

【実施評価】(4.非常にそう思う 3.ややそう思う 2.あまりそう思わない 1.全くそう思わない)

評価項目	岡山県
①新任の保健師が自らの実践事例を発表することができたか。	4
②様々な領域から新任期の保健師を集められたか	4
③数多くの保健師の参加が得られたか	4
④目標が達成できるように、実践事例発表を行えたか	4
⑤目標が達成できるように、工夫してグループ討議を行えたか	4
⑥グループ討議では、参加者一人ひとりが発言できたか	4
⑦ファシリテーターは、目標が達成できるようにグループ討議を進行できたか	4
⑧プログラム内容は参加者に適したものだっか（参加者の反応等からの評価）	4
⑨プログラム運営に必要な人員・人材を確保できたか	4

【結果評価】(4.非常にそう思う 3.ややそう思う 2.あまりそう思わない 1.全くそう思わない)

評価項目	岡山県
①新任の保健師が自身の実践を振り返ることができたか	4
②新任の保健師が自身の強化すべきスキルに気付くことができたか	4
③参加者同士が、業務に関連する情報交換ができるような仲間づくりができたか	2
④参加者同士が、業務に関連する連携ができるような見通しがたったか	3
⑤参加者にとって、自身の考え方や行動の問題点を意識する機会となったか	4
⑥参加者にとって、保健指導のスキルアップの動機付けのきっかけになったか	4
⑦指導保健師（プリセプター）にとって、新任保健師への関わり方を振り返るきっかけになったか	2
⑧参加者の満足を得ることができたか	3
⑨県協会と関係機関等が、連携して保健師の人材育成に取り組める関係性を構築できたか。	4

【企画評価】(4.非常にそう思う 3.ややそう思う 2.あまりそう思わない 1.全くそう思わない)

評価項目	岡山県
①新任の保健師を主な対象とした事業として適切な企画内容だったか	3
②保健指導ミーティングの開催時期・開催場所・実施時間は適切だったか	4
③多様な領域の保健師の参加が得られるよう、周知できたか	4
④多様な領域の保健師の参加を得るために適切な企画内容だったか	4
⑤事業の目的・目標の設定は適切だったか	4
⑥目的・目標について関係者間で事前共有できていたか	3
⑦事業の目的・目標に対し、プログラムの構成・内容は適切だったか	4
⑧企画段階で、必要な人材の参加・協力を得られたか	4
⑨関係機関等と協働・連携するための働きかけはできたか	4

岡山県

【実施評価】

・今回のミーティングでは、テーマを生活習慣病としたため、新任期の保健師が事例提供することは難しかった。しかし、参加者は、行政や病院健診部門の保健師だけでなく、医療機関所属の看護師の参加があった。参加した看護師から“保健師が行っている保健指導の実際が分かった”との発言があり、看護職間の連携の機会に繋がった。

【結果評価】

・プリセプターの参加者が多くないため、評価は低くなった。参加者同士の仲間づくりには至らなかったが、保健師の予防的な活動を病院看護師に理解してもらうことができた。

【企画評価】

・新任保健師の配属部署は、所属によって異なるが、生活習慣病を主とする事例を有しない場合も多い。分散配置や特定保健指導委託等もあり、事例提供者を新任保健師と限定するのは困難な状況がある。県保健所のように新任保健師が生活習慣病を担当しないからこそ、意図的に指導するという体制は少なく、生活習慣病への認識と指導の実際には課題を有している。今回の事例提供者は中堅期とし、生活習慣病を有する困難事例への対応を新任保健師や学生などが学習できる企画にした。

・ファシリテーターは公募したが、希望者がなかったため、今後、事例を通じた実際的な連携推進が図れるよう、関係機関等から選定した。

・また、予期しなかった成果として、看護師の参加がある。重症化予防のための5疾病の地域連携に関する基礎的講義と事例検討を組み合わせ企画し、研修要項（年間計画）に掲載した効果でもある。今回は心疾患の重症化予防・心臓リハビリに関心を持ってもらえ、看看連携にもつながった。

【岡山県】まとめ

新任期は配属部署に限られるので、事例提供者を新任期に限定するのは難しい現状がある。

ファシリテーター選定については、事例検討を通じて、実際的な連携に資するようにした。しかし、ファシリテーターの希望者が少ないので、ファシリテーターの育成・支援も検討を要する。

企画に際しては、保健師職能委員会の重点活動として位置づけている「5疾病5事業に関する重症化予防への取組み」の一環として、事例検討に先立ち「心疾患の地域連携クリティカルパス：心臓リハビリ」に関する医学知識の講演を企画したことで、看護師職能の参加もあり、看看連携やネットワーク形成に有効であった。

また、昼食時間を利用して、地域のご当地体操（新見のロコモ体操）を紹介し、好評であった。

実施後はアンケートと関係者の振り返りを行い、ほぼ目標達成したが、普及拡大をめざして、次年度も継続実施することとした。

香 川 県

特徴 午前中に中堅期のファシリテーター研修を行い、午後に新任保健師研修を実施した。新任保健師研修のファシリテーターを中堅期保健師が担うことで、中堅期保健師にとっても実力を向上できる研修会となった。

【香川県】保健指導ミーティングの企画

目的

多様な場で活動する保健師が、効果的な保健指導を展開するためのスキルアップを図る。また、参加者の協働を促進させるための能力を養う。

目標

- ① 新任期の保健師が、事例をとおして自らの保健指導場面の思考や判断、行動を言語化することができる。
- ② 新任保健師の地域や領域の異なる保健師の意見を聞き、自らの保健指導を考えることができる。
- ③ 新任保健師同士が、保健指導について話し合える仲間ができる。
- ④ 中堅期保健師が保健師活動を展開するための、ファシリテーターの役割や技術を理解できる。

保健指導ミーティングのための事前打合せ

県協会	回数	参加者	内容
香川県	7回	職能委員、講師、ファシリテーター（職能委員）、事例発表者	<ul style="list-style-type: none"> ・内容の企画、案内文の作成 ・日程・タイムスケジュール、事例の検討 ・ファシリテーター研修の内容の決定 ・タイムスケジュール・役割分担、案内文書の作成 ・研修内容、タイムスケジュール等について講師との打ち合わせ ・当日研修アンケートの作成 ・中堅期保健師研修受講者を対象に、事例検討のねらいとファシリテーターの役割について研修の実施 ・ファシリテーター研修を終えて、保健指導ミーティング時の役割について確認 ・全体の打ち合わせ（役割分担）、グループ分け及び会場設営、研修の実施 ・アンケートの集計 ・依頼文、アンケート用紙の作成 ・実施報告内容の確認、評価の実施

周知（多様な領域で働く保健師へ周知するために工夫したこと）

県協会	内容
香川県	<ul style="list-style-type: none"> ・県看護協会の平成30年度研修計画に掲載し、広く普及啓発を行った ・県看護協会会報誌「かがわ看護だより」に実施内容を報告し、フォローアップ研修への参加を呼び掛けた

【香川県】保健指導ミーティングの実施

プログラム構成

1回目（平成30年11月15日）

時間	プログラム	関連する目標
13:30	開会	
13:30～13:40	開会挨拶	
13:40～14:20	講義「効果的な保健指導と事例検討」 講師:香川県立保健医療大学 教授 高嶋 伸子 氏 実践報告（東讃保健所保健師 酒井 氏）	①②③④
14:20～15:40	事例検討 (1)事例報告・質疑応答 (2)グループ討議	①②③④
15:40～16:10	グループ発表	①②③④
16:10～16:25	まとめ	①②③④
16:25～16:30	閉会	

実践事例発表

実践事例発表の概要
(1) 事例発表者の所属領域：行政 (2) 事例発表者の保健師経験年数：約2年3名、約4年1名、約5年1名 (3) 発表タイトル： ①精神疾患のある患者への生活改善への働きかけ ②理解力の乏しい高齢者への効果的な保健指導について ③引きこもっており、統合失調症の治療が不十分な患者とその家族への関わり方について ④精神的不安定さがあり、介護負担の訴えが強い家族とその患者への関わり ⑤認知症のがん検診未受診者への関わりについて

構成	5～6人 × 7グループ
討議のテーマ	① 実践事例発表の気づき ② 事例を通しての自らの保健指導の振り返り ③ 保健師同士のネットワーク形成 ④ ファシリテーターの役割や技術を習得できる
討議で工夫した点	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に講師とファシリテーターが打ち合わせを行い、グループ討議の方向性を確認した。 ・グループワーク構成メンバーは、所属や経験年数を考慮した組み合わせとし、様々な視点での意見交換ができるよう工夫した。 ・話しやすい雰囲気づくりに心がけ、参加者全員が話すことができるように配慮した。 ・少人数のグループごとで一事例を検討できるよう多くの事例を提供してもらった。

【香川県】保健指導ミーティングの評価（考察）

【実施評価】(4. 非常にそう思う 3. ややそう思う 2. あまりそう思わない 1. 全くそう思わない)

評価項目	香川県
①新任の保健師が自らの実践事例を発表することができたか。	4
②様々な領域から新任期の保健師を集められたか	2
③数多くの保健師の参加が得られたか	3
④目標が達成できるように、実践事例発表を行えたか	4
⑤目標が達成できるように、工夫してグループ討議を行えたか	4
⑥グループ討議では、参加者一人ひとりが発言できたか	4
⑦ファシリテーターは、目標が達成できるようにグループ討議を進行できたか	3
⑧プログラム内容は参加者に適したものだっか（参加者の反応等からの評価）	3
⑨プログラム運営に必要な人員・人材を確保できたか	4

【結果評価】(4. 非常にそう思う 3. ややそう思う 2. あまりそう思わない 1. 全くそう思わない)

評価項目	香川県
①新任の保健師が自身の実践を振り返ることができたか	3
②新任の保健師が自身の強化すべきスキルに気付くことができたか	4
③参加者同士が、業務に関連する情報交換ができるような仲間づくりができたか	3
④参加者同士が、業務に関連する連携ができるような見通しがたったか	3
⑤参加者にとって、自身の考え方や行動の問題点を意識する機会となったか	3
⑥参加者にとって、保健指導のスキルアップの動機付けのきっかけになったか	3
⑦指導保健師（プリセプター）にとって、新任保健師への関わり方を振り返るきっかけになったか	2
⑧参加者の満足を得ることができたか	4
⑨県協会と関係機関等が、連携して保健師の人材育成に取り組める関係性を構築できたか。	4

【企画評価】(4.非常にそう思う 3.ややそう思う 2.あまりそう思わない 1.全くそう思わない)

評価項目	香川県
①新任の保健師を主な対象とした事業として適切な企画内容だったか	4
②保健指導ミーティングの開催時期・開催場所・実施時間は適切だったか	4
③多様な領域の保健師の参加が得られるよう、周知できたか	3
④多様な領域の保健師の参加を得るために適切な企画内容だったか	3
⑤事業の目的・目標の設定は適切だったか	4
⑥目的・目標について関係者間で事前共有できていたか	4
⑦事業の目的・目標に対し、プログラムの構成・内容は適切だったか	3
⑧企画段階で、必要な人材の参加・協力を得られたか	4
⑨関係機関等と協働・連携するための働きかけはできたか	4

香川県
<p>【実施評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中堅期のファシリテーター研修と保健指導ミーティングを合わせて実施することにより、中堅期保健師はファシリテーター研修受講後に学びを生かした事例検討を保健指導ミーティングで実践することができた。また、新任保健師は事例検討を通して自らの保健指導を振り返る機会となった。 <p>【結果評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新任保健師が多く参加することができた。 ・新任期の保健師が事例を通して自らの保健指導の展開について考えることができた。 ・経験の異なる保健師の意見を聞き、新任期が自らの保健指導を振り返ることができた。 ・中堅期の保健師がファシリテーターの役割を実践し、自らのファシリテーターの能力について考えることができた。 <p>【企画評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保健指導ミーティングと中堅期のファシリテーター研修を合わせて実施することで、人員・時間ともに効率的に行うことができた。グループ数よりも中堅期保健師の参加者が多かったため、中堅期保健師全員のファシリテーターの実践には至らなかった。 ・県・看護協会・市町が共催したことで、企画案内・研修会実施に係る準備などがスムーズに実施できた。

【香川県】まとめ

- ①今回初めて、県の中堅期保健師研修と保健指導ミーティングを合わせて実施することで、効率的に研修が実施できた。研修そのものの在り方を再考することで、効率化や参加者の増加が図れることが明確となった。
- ②事例検討の前の講師の講義の中に、自施設で実施した事例検討の実践事例を紹介したことで、新任保健師は事例検討の方法等をイメージして参加することが容易になった。
- ③保健指導ミーティングの事例検討により、新任期は自身の保健指導の特徴や傾向、課題に気づくことができた。
- ④中堅期保健師においては、事例検討時のファシリテーターの役割等を学び、保健指導ミーティングの中で実践したことで、中堅期の役割について考える機会となった。
- ⑤今後、アンケート結果等を踏まえ、次年度を企画したい。

愛媛県

特徴 「入門編」と「ファシリテーター編」にわけ、段階的な研修を実施し、中堅期保健師にとっても実力を向上できる研修会となった。

【愛媛県】保健指導ミーティングの企画

目的

- ① 事例の検討を通じて、多様な視点でより効果的な対応策を導き、その状況改善に向けて行動できる専門職を育てるために、その手法を学び、互いに高め合い連携することで新任保健師及びプリセプター等の人材育成に資する。
- ② 日頃の業務の中に、事例検討を定例化するとともに、事例を通じて各領域の保健師や多職種とのネットワーク形成を図ることで、より質の高いケアができる。

目標

- ① 情報の整理とアセスメント力を高める
- ② 実践力 UP 事例検討会の方法を理解できる
- ③ アセスメント力が向上する
- ④ ファシリテーターの役割を理解し、実践できる
- ⑤ 実践力 UP 事例検討会を通じて、各領域の保健師や他職種連携を深める
- ⑥ 事例検討会を定例化し、継続的に実施できる

保健指導ミーティングのための事前打合せ

県協会	回数	参加者	内容
愛媛県	3回	職能委員、ファシリテーター、講師、実践事例発表者	<ul style="list-style-type: none"> ・保健指導ミーティングの概要説明及び会次第 ・事例提供者とファシリテーターの選定及び依頼について ・入門編とファシリテーター編の講師について ・当日の進め方と役割分担 ・事例の確認と当日の打ち合わせの内容確認 ・グループ分け ・会場及び資料の確認 ・4グループごとの事例提供者及びファシリテーター、板書係で進め方等の打ち合わせ

周知（多様な領域で働く保健師へ周知するために工夫したこと）

県協会	内容
愛媛県	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県看護協会会員施設ごとに周知 ・ 他の研修会参加者に周知 ・ 統括保健師や職域に対するメールによる周知

【愛媛県】保健指導ミーティングの実施

プログラム構成

時間	プログラム	関連する目標
13:30	開会・あいさつ	
13:35～14:00	【講義】 ○入門編「実践力 UP 事例検討会とは」 講師 保健師職能委員 出森 美和 氏 ○ファシリテーター編「気づきを深めるためのファシリテートのポイント」 講師 保健師職能委員 入野 了士 氏	① ② ④
14:00～15:00	【演習】 実践力 UP 事例検討会の実施 ○入門編 事例提供者 三瀬 愛美 氏、金谷 里沙 氏 ファシリテーター 松岡 和彦 氏、土幡 淳 氏 ○ファシリテーター編 事例提供者 野上 綾 氏、市山 美帆 氏 ファシリテーター 谷村 千里 氏、佐尾 貴子 氏	① ② ③ ④
15:00～15:30	まとめ ○グループ討議（振り返り） ○講評 保健師職能委員長 兵頭 昌子 氏	⑤ ⑥
15:30	閉会	

実践事例発表の概要（入門編）
(1)事例発表者の所属領域：（行政）市町 (2)事例発表者の保健師経験年数：約2年 (3)発表タイトル：エジンバラ高値で子どもと離れたいという主訴がある母親の事例
実践事例発表の概要（入門編）
(1)事例発表者の所属領域：（行政）市町 (2)事例発表者の保健師経験年数：約2年 (3)発表タイトル：前立腺がん検診で要精密検査となったが、血糖コントロール不良により検査ができず困っている60歳代男性の事例
実践事例発表の概要（ファシリテーター編）
(1)事例発表者の所属領域：（産業）健康管理室 (2)事例発表者の保健師経験年数： (3)発表タイトル：50代男性長期にわたる大量飲酒により大病を繰り返すハイリスクな事例
実践事例発表の概要（ファシリテーター編）
(1)事例発表者の所属領域：（行政）保健所 (2)事例発表者の保健師経験年数：約8年 (3)発表タイトル：神様への独自の信仰心があり、家族や近隣への暴言・暴力から入退院を繰り返しているケース

グループ討議

構成	8～11人 × 4グループ
討議のテーマ	<ul style="list-style-type: none"> ・実践力UP事例検討会を実践してみての振り返り ・今後、事業の中で活かすことができるかどうか
討議で工夫した点	<p>入門編（2グループ）とファシリテーター編（2グループ）で、事例検討会を実施。グループ討議は、事例検討会と同じグループで討議を実施した。今回は、30分程度と討議の時間を以前より〇分長くした。</p> <p>事前力UP事例検討の手法に関する疑問については討議の中で解決できるように工夫した。</p>

【愛媛県】保健指導ミーティングの評価（考察）

【実施評価】（4. 非常にそう思う 3. ややそう思う 2. あまりそう思わない 1. 全くそう思わない）

評価項目	愛媛県
①新任の保健師が自らの実践事例を発表することができたか。	3
②様々な領域から新任期の保健師を集められたか	3
③数多くの保健師の参加が得られたか	3
④目標が達成できるように、実践事例発表を行えたか	4
⑤目標が達成できるように、工夫してグループ討議を行えたか	4
⑥グループ討議では、参加者一人ひとりが発言できたか	4
⑦ファシリテーターは、目標が達成できるようにグループ討議を進行できたか	3
⑧プログラム内容は参加者に適したものだっか（参加者の反応等からの評価）	4
⑨プログラム運営に必要な人員・人材を確保できたか	4

【結果評価】（4. 非常にそう思う 3. ややそう思う 2. あまりそう思わない 1. 全くそう思わない）

評価項目	愛媛県
①新任の保健師が自身の実践を振り返ることができたか	3
②新任の保健師が自身の強化すべきスキルに気付くことができたか	4
③参加者同士が、業務に関連する情報交換ができるような仲間づくりができたか	2
④参加者同士が、業務に関連する連携ができるような見通しがたったか	2
⑤参加者にとって、自身の考え方や行動の問題点を意識する機会となったか	4
⑥参加者にとって、保健指導のスキルアップの動機付けのきっかけになったか	4
⑦指導保健師（プリセプター）にとって、新任保健師への関わり方を振り返るきっかけになったか	3
⑧参加者の満足を得ることができたか	4
⑨県協会と関係機関等が、連携して保健師の人材育成に取り組める関係性を構築できたか。	4

【企画評価】（4. 非常にそう思う 3. ややそう思う 2. あまりそう思わない 1. 全くそう思わない）

評価項目	愛媛県
①新任の保健師を主な対象とした事業として適切な企画内容だったか	4
②保健指導ミーティングの開催時期・開催場所・実施時間は適切だったか	4
③多様な領域の保健師の参加が得られるよう、周知できたか	3
④多様な領域の保健師の参加を得るために適切な企画内容だったか	3
⑤事業の目的・目標の設定は適切だったか	4
⑥目的・目標について関係者間で事前共有できていたか	4
⑦事業の目的・目標に対し、プログラムの構成・内容は適切だったか	4
⑧企画段階で、必要な人材の参加・協力を得られたか	4
⑨関係機関等と協働・連携するための働きかけはできたか	3

愛媛県

【実施評価】

・昨年度より、「入門編」と「ファシリテーター編」に分け、段階的な研修を実施することで、満足度が高くなった。「入門編」は新任期を中心にプリセプター等が支援することで、手法を学ぶとともにアセスメントができた。「ファシリテーター編」では、発達障害をもつ困難な事例であったが、ファシリテーターの進行もスムーズにでき、参加者の学びも深まったと考える。

【結果評価】

・スキルを身につけることはできた。振り返りの中で疑問点等のシェアができ、今後の実践に繋がる気運が高まった。

・健診団体や地域包括支援センター等人材育成に取り組むネットワークはできてきている。

参加者同士の情報交換や業務に関する連携まではきっかけをつくることはできるが、時間も短く不十分であり、目標の達成には至らなかった。

【企画評価】

・「入門編」を実施することで、新任期に効果的な企画内容であった。

・開催時期は、10月前後の開催が適切と考えていたが、災害があり例年と同様になった。

・目的、目標はほぼ達成できたと考える。また、自組織での継続的な実践については、毎年実践する保健所や市町が増えている。

【愛媛県】まとめ

○事例の骨格が大事である。骨格の出し方で、主訴の捉え方が変わるので、講義の中で修正する必要がある。

○アセスメントが弱いので、講義にアセスメントをいれる。

○事前学習として、発達障害がある事例では、発達障害を理解するため、ファシリテーターの講義等を考える必要があるとの意見があり、今後の実施においては考慮が必要である。

○多職種連携の事例検討会や医師の事例検討会でもこの手法を使ってみるといふ、新たな展開があった。

佐 賀 県

特徴 県の研修計画とも連携しながら、講師に県内の人材を活用し実施した。新任保健師から提供された6事例を経験や職域が異なる保健師間で検討した。

【佐賀県】保健指導ミーティングの企画

目的

- ① 新任期及び指導保健師（プリセプター）の保健指導の力量の向上を図る。
- ② 職域を越えた保健師間のネットワーク形成を図る。

目標

- ① 新任保健師が早期の段階で自らの実践を事例にし、事例検討を行うことができる。
- ② 保健指導の実践事例をとおして自身の実践を振り返り、今後強化すべきスキルに気づくことができる。
- ③ 指導保健師等は、新任保健師とともに実践事例の検討に加わることで、新任保健師の課題を捉え、今後の指導に活かすことができる
- ④ 領域を超えた新任保健師及び中堅期・管理期保健師間のネットワークの形成が図られる。

保健指導ミーティングのための事前打合せ

県協会	回数	参加者	内容
佐賀県	2回	職能委員	<ul style="list-style-type: none"> ・開催日時、場所の決定 ・開催要領(案)の検討 ・講師・コーディネーターの決定 ・参加者への周知方法について ・事例提供者6名、ファシリテーター6名の依頼について ・講師、コーディネーターの決定、依頼について ・具体的な手順の検討、必要物品の確認、役割分担について ・アンケート内容の確認について

周知（多様な領域で働く保健師へ周知するために工夫したこと）

県協会	内容
佐賀県	<ul style="list-style-type: none"> ・県医務課が主催する現任教育の一環としても実施したため、県職保健師、市町保健師については、佐賀県医務課長と佐賀県看護協会長の連名で開催通知を送付（県医務課が送付） ・その他医療機関の県看護協会会員については、会員名簿に基づき開催通知を送付 ・県看護協会ホームページに掲載 ・職能委員による周知と参加勧奨 ・産業保健師に依頼し、グループメールを送信 ・把握している非会員の保健師に開催通知を送付

【佐賀県】保健指導ミーティングの実施

プログラム構成

時間	プログラム	関連する目標
9:00	開会	
9:05~9:20	事例検討会の説明 説明者：佐賀県医務課 吉田 由美 氏	①②③
9:20~10:20	グループ討議①「実践力 UP 事例検討会」 6G	①②③④
10:20~10:40	グループ討議②「事例検討会の振り返り」 6G	①②③④
10:40~11:00	事例検討のまとめ・講評 コーディネーター： 佐賀県立総合看護学院 田中 律子 氏	①②③
11:00~11:10	休憩	
11:10~12:40	講話「相談支援の現場から～保健師に期待されること～」 講師：佐賀県総合福祉センター 中島 由紀子 氏	①②③
12:40~	アンケート記入他	①②③
13:00	閉会	

グループ討議

構成	6人×1グループ、 7人×4グループ、 8人×1グループ
討議の テーマ	A：I型糖尿病を患う小学生への食生活改善に向けた支援について B：多重課題を抱える家庭に対する支援 C：特定保健指導 積極的支援該当者への支援 D：統合失調症で精神のグループホームで生活する方の支援 E：人工呼吸器装着の長期療養児の母親に対する支援 F：医療機関未受診者への受診勧奨について
討議で 工夫した点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新任保健師の現任教育を兼ねており、事例提供者は新任保健師とした。 ・ ファシリテーターには経験者を選定し、更に事前打合せで役割等を確認し、検討会がスムーズに実施できるように配慮した。 ・ グループ分けの際には、経験年数や担当業務を考慮した。 ・ 「グラウンドルール」や「具体的な手順」を各グループのホワイトボードに張り付け、確認しながら実施できるようにした。 ・ 板書がスムーズにいくように板書係を各グループに2名ずつ配置した。 ・ 広い会場を使用し、隣のグループの声が気にならないように配置した。

【佐賀県】保健指導ミーティングの評価（考察）

【実施評価】(4. 非常にそう思う 3. ややそう思う 2. あまりそう思わない 1. 全くそう思わない)

評価項目	佐賀県
①新任の保健師が自らの実践事例を発表することができたか。	4
②様々な領域から新任期の保健師を集められたか	2
③数多くの保健師の参加が得られたか	3
④目標が達成できるように、実践事例発表を行えたか	4
⑤目標が達成できるように、工夫してグループ討議を行えたか	4
⑥グループ討議では、参加者一人ひとりが発言できたか	4
⑦ファシリテーターは、目標が達成できるようにグループ討議を進行できたか	4
⑧プログラム内容は参加者に適したものだっか（参加者の反応等からの評価）	4
⑨プログラム運営に必要な人員・人材を確保できたか	4

【結果評価】(4. 非常にそう思う 3. ややそう思う 2. あまりそう思わない 1. 全くそう思わない)

評価項目	佐賀県
①新任の保健師が自身の実践を振り返ることができたか	3
②新任の保健師が自身の強化すべきスキルに気付くことができたか	3
③参加者同士が、業務に関連する情報交換ができるような仲間づくりができたか	3
④参加者同士が、業務に関連する連携ができるような見通しがたったか	3
⑤参加者にとって、自身の考え方や行動の問題点を意識する機会となったか	4
⑥参加者にとって、保健指導のスキルアップの動機付けのきっかけになったか	4
⑦指導保健師（プリセプター）にとって、新任保健師への関わり方を振り返るきっかけになったか	4
⑧参加者の満足を得ることができたか	3
⑨県協会と関係機関等が、連携して保健師の人材育成に取り組める関係性を構築できたか。	3

【企画評価】(4. 非常にそう思う 3. ややそう思う 2. あまりそう思わない 1. 全くそう思わない)

評価項目	佐賀県
①新任の保健師を主な対象とした事業として適切な企画内容だったか	4
②保健指導ミーティングの開催時期・開催場所・実施時間は適切だったか	3
③多様な領域の保健師の参加が得られるよう、周知できたか	3
④多様な領域の保健師の参加を得るために適切な企画内容だったか	3
⑤事業の目的・目標の設定は適切だったか	4
⑥目的・目標について関係者間で事前共有できていたか	4
⑦事業の目的・目標に対し、プログラムの構成・内容は適切だったか	4
⑧企画段階で、必要な人材の参加・協力を得られたか	4
⑨関係機関等と協働・連携するための働きかけはできたか	4

佐賀県

【実施評価】

- ・事例検討会、振り返りのグループワークではほぼ全員が発言できており、保健指導の楽しさ、やりがいを感じた者も多かった。
- ・実践力UP事例検討会実施後に参加者が自分自身の課題に気づき、事例検討やアセスメントの重要性を感じていた。
- ・全参加者の半数以上が新任保健師であり、保健指導のスキルアップを望んでいた。

【結果評価】

- ・事例提供者(新任期)からは、「提供することで事例の振り返りと今後の支援へつなげていくことができた」という意見が出ていた。
- ・新任期からは「自由に発言でき緊張せずに参加できた。経験者の意見も聞くことができスキルアップにつながった」という意見が多かった。
- ・経験や職域の違いはあるが、事例検討会の実施により、それぞれの事例について共有し、意見交換できたことは良かった。

【企画評価】

- ・職能委員会で実施の方向性を決定。ファシリテーターを交えて事前打合せ会を実施し準備できた。
- ・限られた時間を有効に活用するため、当日朝、最終打合せを行い、保健指導ミーティングの全体運営をスムーズに行うことができた。
- ・研修等内容は、日本看護協会の実践力UP事例検討会モデルに習い、プログラムの構成・内容は適切で解りやすく、目的を達成することができた。
- ・企画当初から講師には県内の人材を活用することを決定し、企画はスムーズであった。
- ・参加者を確保するために県と協力して呼びかけを行い、県・市町には医務課長と協会長の連名の案内文を発送した。

佐賀県

- ・市町保健師は20市町中8市町から20名の参加があり、県職保健師は全保健福祉事務所等から新任期と指導的立場の保健師を中心に15名の参加があったが、そのうち6名はファシリテーターとしての参加であり、新任期の保健師は9名のみであった。医療機関で勤務する4名の保健師、また産業保健領域に勤務する3名の保健師の参加も得られた。
- ・保健師活動において県（保健福祉事務所等）と市町の役割分担により、日常業務で関わる事例が偏ってきている。特に新任期では他者の事例の検討をすることで、自己のアセスメント力を身につけると共に、事例をとおしてお互いの業務を理解しあうことができた。
- ・新任保健師研修の一環として開催したが、参加者全員が自己のケースワークを振り返り保健師としての保健指導のあり方について学習することが出来た。
- ・新任保健師が積極的に発言できるように配慮したことで、事例の情報整理の仕方やアセスメント力が向上し、同時にケースワークへの実践力が高まった。
- ・当会が事例検討会に取り組んで6年目であるが、ここ数年各職場でも継続して実施しているところもあり、実施方法等に慣れてきている。さらにファシリテーターの力量も向上し、スムーズな事例検討が実施できており、保健指導力の向上につながっている。
- ・一方、参加者数は開始当初70名程度得られていたが、年々減少し今年度は40名程度となった。少しマンネリ化しているかもしれない。
- ・当日に急な欠席があり、グループ人数が少ないところもあったが、特に混乱もなく実施することができた。

資 料

II. 本日の保健指導ミーティングについてお尋ねします。

1. 今回はどのような内容でしたか(○はいくつでも)

[1. 講演会 2. 事例検討 3. 実践事例発表 4. グループワーク 5. その他]

2. 以下の項目について、該当する番号に○を付けてください。(○は1つだけ)

質 問	回答欄			
	4. 非常に そう思 う	3. ややそ う思う	2. あまり そう思 わない	1. 全くそ う思わ ない
[皆様へお伺いします]				
(1) 参加者同士の交流ができましたか	4	3	2	1
(2) 自身に必要なことを学ぶことができましたか	4	3	2	1
(3) 今後もやりとりできるような関係づくりができましたか	4	3	2	1
(4) グループ討議では、ご自身も積極的に発言できましたか	4	3	2	1
(5) ご自身の保健指導の課題について気づくことができましたか	4	3	2	1
(6) 今後のスキルアップへの動機づけができましたか	4	3	2	1
(7) 強化すべきご自身のスキルを明確にすることができましたか	4	3	2	1
(8) グループ討議は、ご自身にとって役に立つ内容でしたか	4	3	2	1
(9) 時間配分は、適切でしたか	4	3	2	1
(10) 開催回数は、適切でしたか	4	3	2	1
[2. 事例検討に○をつけた方にお伺いします]				
(1) 事例検討が重要であると思う内容でしたか	4	3	2	1
(2) アセスメントが重要であると気づく内容でしたか	4	3	2	1

■その他ご意見等ございましたらお聞かせください。

(都道府県看護協会様へ) 上記破線以降は、都道府県看護協会様で、質問を変更していただいてかまいません。

■アンケート結果は、本事業の目的以外には使用せず、分析は統計的に処理するとともに適切な取り扱いをします。
個人が特定されることはございませんので、ご安心ください。
ご協力ありがとうございました。

平成 30 年度 厚生労働省保健指導支援事業人材育成事業

「保健指導ミーティング」実施報告

平成 30 年 厚生労働省
保健指導支援事業 人材育成事業

「保健指導ミーティング」実施報告

発行日 2019 年 3 月 31 日
編集 公益社団法人 日本看護協会 健康政策部保健師課
発行 公益社団法人 日本看護協会
〒150-0001 東京都渋谷区神宮前 5-8-2
TEL 03-5778-8831 (代表)
FAX 03-5778-5601 (代表)
URL <http://www.nurse.or.jp>

※本書からの無断転載を禁ずる